

# 令和 2 年度診療年報

NHO 長崎川棚医療センター

# 巻頭言

---

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染の流行に対して、ヒトがどのように対応したかを示す一年だった。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置といった人の流れを抑えて感染を封じ込める対策とワクチン接種などにより、TOKYO 2020 オリンピックは 2021 年 7 月 23 日に開催された。

当院では令和 2 年 3 月に発熱・感冒様症状外来を設置し、8 月に新型コロナウイルス感染疑いの患者を受け入れる専門病棟を設け、11 月に院内で PCR 検査を開始した。疑い患者の初期診療は総合診療内科の先生方が担い、PCR 検査で陰性を確認後に専門科へ転科するという体制が整っている。また、人工呼吸器管理をしている患者が多く入院している病棟で働く職員などは定期的に PCR 検査を行い感染予防に努めている。人工呼吸器管理をしながら在宅療養している重症の患者に対しては、ワクチン接種を入院でできるように行政と連携して取り組んだ。

病院では面会制限があり、家族との面会のみならず外出や外泊も制限されている。医療者は入院患者に対して家族としての役割も担い、安心して安楽な入院生活ができるように努めなければならない。医療機器や医薬品の情報提供も担当者が病院を訪問することが制限されている。郵便や電子メールで情報が配信されているが、大量に配信されると必要な情報を取捨選択することに時間を費やしてしまう。学会などはオンラインで開催され参加の自由度が高くなっているように思えるが、実際に参加するには従来以上のモチベーションが必要で、今年度の年報でも学会発表が以前よりも極端に少なくなっていることがわかる。

新型コロナウイルス感染症を通して、私たちは本当に必要なものが何であるかを考えさせられた。それは感染症流行の有無に関わらない本質的なものが問われているように思われる。新型コロナウイルス感染対策を施しながらブレない医療を提供することが重要で、この診療年報がブレない医療を考える上で役立つことを願う。

2021 年 8 月

NHO 長崎川棚医療センター 臨床研究部長

福留隆泰

# 診療部

---

# 診療部－消化器内科－

## ■ 診療科の特色

当院は九州地区の神経・筋疾患基幹医療施設ですが、地域の総合病院としての役割も担っており、当科においては消化管疾患、肝胆膵疾患についても積極的に取り組んでいます。

診療科の特色として、検査、手技が多く、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的逆向性胆管膵管造影、内視鏡的総胆管結石除去術、内視鏡的胆管ステント挿入術、内視鏡的観察下胃瘻造設術などを行っています。

## ■ 入院診療実績

疾患名	患者数	
	令和2年度	令和元年度
食道癌、胃癌、大腸癌	52	50
肝癌	2	4
胆管癌	7	4
膵癌	3	5
肝障害	4	6
大腸ポリープ	83	92
消化管出血	16	14
良性胆道疾患（胆石等）	17	23
胃、腸疾患	30	52
その他	69	103
消化器疾患全体	283	353

## ■ 検査、手技実績

検査、手技名	患者数	
	令和2年度	令和元年度
上部消化管内視鏡	484	530
大腸内視鏡	431	445
内視鏡的逆向性胆管膵管造影	17	27
内視鏡的消化管止血術	18	9
内視鏡的食道静脈瘤結紮術	2	1
胃瘻造設術（胃瘻交換）	13(9)	12(22)
内視鏡的大腸ポリープ切除術	85	95
内視鏡的胆管ステント挿入術	7	16
内視鏡的総胆管結石除去術	6	5
内視鏡的イレウス管挿入	5	0
内視鏡的大腸ステント留置術	1	1
内視鏡的異物除去	4	2

## ■ 将来の展望

現在、当院の消化器内科医は2名で消化器疾患の診療、検査に携わっている状態ですが、地域の要求に対し満足いただける医療を目指して努力しております。

コロナ禍のなかで、まだ先の見通せない状況ではありますが、今後もさらなる地域医療への貢献を目標といたします。

# 診療部－脳神経内科－

---

## ■ 診療科の特色

当院の脳神経内科は、西九州脳神経センターとしての役割を担い、脳卒中、めまい、頭痛、認知症、てんかんといった一般的な疾患から、パーキンソン病を始めとする神経変性疾患、多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多発筋炎、髄膜・脳炎、ジストニアなど様々な神経・筋疾患に対する専門的診断治療を行っています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行など問題の多い一年でしたが、制約の範囲内で個々の患者に対して最善の治療を目指し、診療を行いました。

外来では、川棚町内を始め、佐世保、有田・伊万里、波佐見、長崎市内、島原など、広い地域を対象として診療を行っています。初診時には、問診・神経学的診察を行った上で、MRI など画像診断、電気生理学的検査、RI 検査、筋生検などを駆使して診断し、急性期治療、慢性期の管理などを行っています。また、ジストニアや痙性斜頸、眼瞼痙攣に対しては、ボトックス療法を積極的に行っています。パーキンソン病に対しては、長崎県で唯一、脳神経外科と共同して脳深部刺激療法を行っており、術前評価、植え込み手術からその後の管理まで行っています。他県で手術を受けた患者さんでも、必要に応じて、当院で治療を引き継ぐ場合もあります。

入院では、①脳梗塞急性期治療、②重症筋無力症や多発性硬化症など免疫性神経疾患に対するステロイドパルス療法、大量γグロブリン療法、血漿交換療法などの積極的な免疫治療、③パーキンソン病などの進行性変性疾患に対する、薬剤調整やリハビリテーション、④進行期神経難病患者の在宅療養支援やレスパイト入院、などを行っています。在宅での人工呼吸器や NPPV 治療も行っており、導入時の各調整や指導、その後の管理や定期的なレスパイト入院など、無理なく在宅ケアが開始・継続できるようサポートしています。そのような患者さんに対しては、災害時のご家族の対応方法、当院への避難入院や日ごろの指導についても、定期的なカンファレンスで検討した上で、受け入れ体制を整えています。

病棟カンファレンスや脳卒中カンファレンスなども行い、他職種からなるチームで診療を行っています。特に進行期神経難病患者の在宅支援に関しては、病棟看護師、MSW、リハビリスタッフはもちろん、在宅での訪問看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパーなどを含めたチーム医療が必要であり、退院前カンファレンスを開催するなど密な連携を心がけています。

■入院診療実績

疾患	症例数(人)
脳血管障害	42
神経変性疾患	316
(うちパーキンソン病)	(151)
(うち筋萎縮性側索硬化症)	(74)
脱髄・炎症性疾患	12
ニューロパチー	36
ミオパチー	17
神経筋接合部疾患	7
脳炎・髄膜炎	4
てんかん	10
その他	53
	小計 497
一般内科疾患	175
	合計 672

・主要な検査、治療

検査・治療	件数
筋電図	55
脳波	89
筋生検	3
ボトックス療法	65
血漿交換療法	3
DBS(新規)	36 (5)

## ■研修・教育

カンファランス	参加職種	人数	開催
脳神経内科カンファレンス	医師	5	1回/週
脳神経内科・脳外科 合同抄読会	医師	7	1回/週
脳卒中カンファレンス	医師、看護師、リハ療法士、栄養士、MSW	5～10	1回/週
病棟カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、 リハ療法士、栄養士、MSW	15	1回/週
退院前カンファレンス	患者・家族、在宅療養支援関係者、病棟スタッフ	10	適宜

## ・治験関連

治験	0件
受託研究	6件

## ■将来への展望

社会や地域の高齢化に伴い、一人の患者を取り巻く基礎疾患や社会的背景も複雑化し、総合的な判断が必要となります。パーキンソン病や認知症などの慢性疾患は増加傾向となり、また、これまでは比較的若い世代に後発していた免疫性神経疾患の高齢発症も問題となっています。当科では、様々な神経疾患を中心とした全人的医療を目指し、幅広い診療・教育活動を続けていきたいと考えています。

## ■研究実績

### ・競争的研究資金の獲得

(1) 厚生労働科学研究費 有 スモンに関する調査研究班 福留 隆泰 厚生労働省行政推進調査事業補助金（難治性疾患政策研究）

(2) 厚生労働科学研究費 有 神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者 QOL の検証 松尾 秀徳 厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

## 学会

1. 筋萎縮性側索硬化症と2型糖尿病 福留 隆泰 第61回日本神経学会学術総会
2. 臨時応急時の気管カニューレ交換 院内特定行為認定看護師の養成 福留 隆泰 第74国立病院総合医学会
3. 重症筋無力症・LEMS・多発性筋炎について 成田智子 第41回日本アフレシス学会学術大会シンポジウム
4. 神経痛性筋萎縮症との鑑別が困難であった神経リンパ腫症の1例 富田 祐輝 第230回日本神経学会九州地方会
5. 当院におけるDBS実施状況について 富田 祐輝 エクフィナ発売記念講演会
6. パーキンソン病の検査と治療 福留 隆泰 東彼杵郡医師会火曜会生涯教育講座

## 和文

認知症医療・ケアにおける機構病院の役割 認知症カフェの設置 福留 隆泰

医療 (0021-1699)74 巻4号 Page176-179(2020.04)

## 論文

Nagaishi A, Narita T, Woodhall M, Jacobson L, Waters P, Irani SR, Vincent A, Matsuo H. Autoantibodies in Japanese patients with ocular myasthenia gravis. Muscle Nerve. 2021;63(2):262-267.

Hakan Cetin, Richard Webster, Wei Wei Liu, Akiko Nagaishi, Inga Koneczny, Fritz Zimprich, Susan Maxwell, Judith Cossins, David Beeson, Angela Vincent. Myasthenia gravis AChR antibodies inhibit function of rapsyn-clustered AChRs. J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2020;91(5):526-532.

Mitsuru Watanabe, Yuri Nakamura, Shinya Sato, Masaaki Niino, Hikoaki Fukaura, Masami Tanaka, Hirofumi Ochi, Takashi Kanda, Yukio Takeshita, Takanori Yokota, Yoichiro Nishida, Makoto Matsui, Shigemi Nagayama, Susumu Kusunoki, Katsuichi Miyamoto, Masanori Mizuno, Izumi Kawachi, Etsuji Saji, Takashi Ohashi, Shun Shimohama, Shin Hisahara, Kazutoshi Nishiyama, Takahiro Iizuka, Yuji Nakatsuji, Tatsusada Okuno, Kazuhide Ochi, Akio Suzumura, Ken Yamamoto, Yuji Kawano, Shoji Tsuji, Makoto Hirata, Ryuichi Sakate, Tomonori Kimura, Yuko Shimizu, Akiko Nagaishi, Kazumasa Okada, Fumie Hayashi, Ayako Sakoda, Katsuhisa

Masaki, Koji Shinoda, Noriko Isobe, Takuya Matsushita, and Jun-ichi Kira. HLA genotype-clinical phenotype correlations in multiple sclerosis and neuromyelitis optica spectrum disorders based on Japan MS/NMOSD Biobank data. *Scientific Reports*. 2021; 11: 607.

Nakahara K, Nakane S, Kitajima M, Masuda-Narita T, Matsuo H, Ando Y. Diagnostic accuracy of MRI parameters in pure akinesia with gait freezing. *J Neurol*. 2020;267(3):752-759.

Nagaishi A, Narita T, Woodhall M, Jacobson L, Waters P, Irani SR, Vincent A, Matsuo H. Autoantibodies in Japanese patients with ocular myasthenia gravis. *Muscle Nerve*. 2021;63(2):262-267.

(文責：脳神経内科 成田智子)

# 診療部－循環器内科－

---

## 1. 診療科の特色/概要・基本診療指針と展望

循環器科1人体制となり、急性心筋梗塞などの救急疾患には対応できなくなっていますが、高齢化が進むなかで地域住民の循環器疾患有病率は確実に上昇してきています。令和2年度8月より心臓リハビリを開始しました。狭心症に対する心臓カテーテル検査や徐脈性不整脈に対するペースメーカー植込み術に加え、心不全を中心とした循環器領域の診療を行っていきます。

## 2. 入院診療実績

入院総数 179名

平均在院日数 20.7日

冠動脈造影 64件

人工ペースメーカー植込 8件

## 3. 研修・教育

### 研修・資格

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本循環器学会認定専門医 1名

日本内科学会総合内科専門医 1名

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士 1名

### 教育・講演会

院内スタッフ対象学習研修会(AED、EKG、心カテ、心臓リハビリなど) 随時開催

## 4. 治験・共同研究

### ■分担研究

・EXCEED-J

『簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効果的なハイリスク患者抽出方法の確立』 Establishment of Method to Extra a High Risk Population Employing Novel Biomarkers to Predict Cardiovascular Events in Japan

研究責任者:NHO京都医療センター 臨床研究センター 和田 啓道

・PREHOSP-CHF

『慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立 ～新規バイオマーカーと心不全再入院イベントの関連～』 Development of Novel Biomarkers to Predict REHOSPitalization in Chronin Heart Failure

研究責任者: NHO京都医療センター 循環器内科 井口守丈

・PREVENTION-HF

『高齢慢性心不全患者における肺炎球菌ワクチン接種とその後の心不全の臨床経過: 長崎におけるコホート研究』

研究責任者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 予防医療学分野 石見 拓

主たる研究実務担当者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 専門職学位課程 予防医療学分野 吉村 聡志

■治験 : なし

## 5. 学会・論文など

・2020年10月13日 東彼杵郡医師会火曜会生涯教育講座

当院におけるペースメーカー外来について

# 診療部－代謝内科－

## ■ 診療科の特色

代謝内科では、糖尿病、バセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症の他、高脂血症、肥満・やせなどの内分泌代謝性疾患に対する診療を行っている。

内分泌疾患については、県内でも常勤の内分泌専門医がいる病院は非常に少ないため、地域の先生方から多くの紹介をいただき、専門的な診断や治療を行い、地域における内分泌専門医療機関として役割を果たしていくことを目指している。また、糖尿病診療においてはコメディカルを加えたチーム医療体制の構築を図り、糖尿病合併症の重症化予防に努めている。

外来では、糖尿病患者の診療が中心であるが、甲状腺疾患の紹介患者数も増加しており、バセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍などの内分泌疾患患者の診療も行っている。

糖尿病患者に対してはインスリン強化療法を積極的に導入し、病態を考慮した治療を行っている。また、インスリン抵抗性の評価、超音波断層法を用いた頸動脈病変の評価、血圧脈波計を用いた非観血的下肢血行動態の評価、神経伝道速度の定量的評価などを併用して、糖尿病の代謝動態および合併症状態の総合的把握にあたっている。糖尿病患者教育に関しては、外来ならびに病棟での糖尿病教室の運営、町主催の講演会などを通じて合併症予防の啓蒙活動に力を入れている。

教育入院については、2～3週間のクリティカルパスを作成して適切な教育入院を目指している。教育入院後は積極的に逆紹介し、当院外来では血糖コントロール困難例・重症例を中心に糖尿病患者の診療を行っている。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は年々増加傾向にあるため、糖尿病教育には特に重点をおいており、糖尿病療養指導士(看護師・栄養士)とチームを組んで集団指導(糖尿病教室)、個人指導、糖尿病パンフレットなどによる指導などを行っている。外来にて糖尿病性腎症に対する透析予防管理を開始し、医師・専門看護師・管理栄養士による腎症進展予防のための療養指導を行っている。また、積極的に地域医療連携を進め、合併症予防を推進していくために、糖尿病疾病管理システムの運用を行っている。

## ■ 入院診療実績

・2020 年度入院患者数：74 名

### ・入院患者主要疾患

疾患名	ICD-10 コード	患者数	死亡数
1) 2型糖尿病	E11*	30	0
2) 1型糖尿病	E10	7	0
3) 甲状腺腫瘍	D440	5	0
4) うっ血性心不全	I500	5	0

5) めまい症候群	H819	3	0
6) パニック障害	F410	2	0
7) 原発性副甲状腺機能亢進症	E210	1	0
8) 甲状腺機能低下症	E038	1	0

・主要な検査

甲状腺穿刺吸引細胞診検査件数：7件

■ 研修・教育

・カンファランス

病棟カンファランス（週1回）

・教育・講習

なし

■ 将来への展望

糖尿病診療については、チーム医療を強化し、教育入院の質の向上と入院期間の短縮化を図っていききたい。また、外来での透析予防管理の件数増加やフットケアなどの療養指導の充実、外来インスリン導入のための体制づくりを推進していききたい。また、糖尿病性腎症をはじめとする糖尿病の合併症の早期発見と進展防止の取り組みを強化していききたい。

内分泌診療については、地域の専門医療機関として、内分泌疾患の適切な診断と治療を提供できるよう地域の医療機関との連携を強化していききたい。

■ 研究実績

・競争的研究資金の獲得

なし

・原著論文

なし

・学会発表

なし

・講演

なし

・座長

- 1) <座長> 生涯教育講座「たのもしい力 ～GLP-1 配合インスリン～」(くりや内科医院 副院長 厨直美先生) 東彼杵郡医師会学術講演会「火曜会」、川棚、2021.2.9

# 診療部－放射線科－

放射線科医長 中村 悟 令和3年4月7日

## [1]放射線科の特色

放射線科は近年その重要度を増しているCT、MRI、RIなどの画像診断を主な業務とし、血管造影や消化管造影の一部も施行しています。機器自体は比較的新しく高性能で、最新鋭の設備と言えます。電子カルテやレポートシステムも完備で、理想的なフィルムレス環境です。2名の常勤放射線科医(診断専門医)および2名の大学からの非常勤医師により、ほぼ100%を読影(診断)しています。

## [2]CT、MRI、RIの検査件数の推移

令和2年度のCTは3,432(←3,730)件とやや減少した。

MRIも2,380(←2,674)件と減少した。

CT、MRIともに急患などの依頼に対しては対応し易くなっている。

RIは123(←163)件と減少した。

## [3]院外紹介患者数の推移(連携室データ)(MRI、CT、RIの合計)

平成27年度 1058件

平成28年度 1108件

平成29年度 1113件

平成30年度 1041件

令和1年度 1024件

令和2年度 843件

今年度は、コロナによる影響で、外来患者数(紹介を含む)の減少およびそれに伴う入院患者数の減少が大きく影響した。

紹介患者では、当日紹介もほぼ対応している。また、総合情報管理室の協力もありCD-Rでの画像出力は多くの施設で利用いただいている。

今後も各方面と協力して迅速丁寧な対応を続けたい。

#### [4]放射線科の現状と展望について

CT、MRI、RIともに検査件数が減少した。胸部単純写真の読影が始まり、画像管理加算1の一部が取れるようになった。CT、MRI、RI検査の読影80%以上という画像管理加算2の維持は当分可能と思われる。CTやMRIの全3D処理や再構成は全て放射線技師が作成しており、放射線科医の負担軽減に役立っている。大型医療機器の更新については、透視台が更新され、ポータブル機器1台が導入され、線量管理モニターが設置された。

外来や連携室などの病院各部門とさらに協力しながら、病院の活性化に向けて頑張りたいと思います。

#### [5]医療安全講習会開催(放射線科)

大山康裕、有満誠、岩野文彦。

#### 業績：論文

Nakamura Satoru. Current Research Status of SARS-CoV-2 as a Pathogen of COVID-19. Journal of Health and Medical Sciences, 2020. Vol. 3, No. 2, 184.

ASCO(American Society of Clinical Oncology:アメリカ癌治療学会)本部からの電話インタビュー：中村 悟。

# 診療部－脳神経外科－

---

(1) 入院症例数 141 名

(2) 手術症例数 41 例

## 脳血管疾患

高血圧性脳出血（頭蓋内血腫除去） 1

同上（定位的脳内血腫除去） 1

## 外傷

慢性硬膜下血腫 7

## 機能外科手術

パーキンソン病・本態性振戦など

脳刺激装置植込 6

脳刺激装置交換 14

微小血管減圧術 1

てんかん

側頭葉海馬切除 1

脳刺激装置植込 1

迷走神経刺激装置植込 2

迷走神経刺激装置交換 1

## 水頭症手術

シャント手術 4

## その他

創傷処理 2

(3) 剖検数 0

**I. 論文業績**

**II. 学会発表**

- 1) 脳梁離断後に前頭葉に棘波が局在化した 1 例（続報）. 戸田啓介, 野田満. 第 74 回佐世保脳神経外科医会（佐世保市）2020 年 2 月 18 日

# 診療部－外科－

## 1.診療科の特色／概要・基本診療指針

当科では鏡視下手術(腹腔鏡、胸腔鏡)・小切開手術を主体にした低侵襲手術、高齢者・病弱者に対する十分な術前管理に基づいた安全性の高い手術を基本とします。領域は甲状腺・乳線・肺・消化管(胃、小腸、大腸、直腸)・肝臓・胆嚢・膵臓のほか、下肢静脈瘤、難治性神経疾患に対する喉頭気管分離術など幅広く行うことを方針としています。癌腫の診療には、各臓器別に診療ガイドラインからエビデンスに基づいた治療を選択するようにしています。また、化学療法や癌緩和医療など、手術以外の分野の診療も積極的に行っています。

## 2.入院診療実績

令和2年度には178名入院され、外科・呼吸器外科で130症例(全身麻酔93例、腰椎麻酔18例、局所麻酔19例)の手術が行われました。

### ●臓器別手術症例数

	全身麻酔	腰椎麻酔	局所麻酔
胃	12	---	1
小腸	6	---	---
結腸、直腸	32	2	1
胆嚢、総胆管	25	---	---
ヘルニア	8	15	3
呼吸器	2	---	6
その他	8	1	8
総数	93	18	19

術式分布  
腹腔鏡下手術 12

### 3.研修・教育

入院患者さんの栄養管理を目的とした研修プロジェクトである TNT 研修会に積極的に参加し、ライセンスの習得を行っています。また、外科的疾患に対する知識を深めるため教育集会などを病棟中心に定期的を開催しています。

### 4.学会・論文

閉塞性 S 状結腸癌の口側に、膀胱筋層に達する魚骨穿孔と膿瘍形成を合併した 1 例

内田 史武、寺田 隆介、藤岡 ひかる

日本腹部救急医学会

# 診療部－整形外科－

---

令和2年度は藤本医師1名の診療体制であった。

長崎大学病院から月・水曜日に各1名の応援体制であった。

手術は69例で、大腿骨頸部骨折が主であった。

入院1日平均患者数は16.1人と、昨年度の14.2人より増加していた。

外来1日平均患者数は15.8人と、昨年度の19.0人より減少していた。

また、大きな医療事故はなかった。

# 診療部－総合診療内科

---

## ■診療科の特色

当科は2019年6月に新設された診療科です。科のモットーとしては、フットワークを軽く、全体を見渡しながらか、現場ニーズに合わせた診療を心がけています。診療科にかかわらず内科全般の診療をおこなっています。特に高齢者人口の増加に伴い、複数疾患を抱える患者さんが増加し、このような患者さんの診療、問題解決を得意としています。その他原因のわからない発熱、体重減少といった診断の確定していない患者さんへの診療も行います。また、院内感染対策チームへ参加し、感染症対策への取り組みを行っています。

## ■スタッフ

### ○常勤2名

専攻医1名（2020年度4月より）

### ○小児科兼任常勤1名

## ■教育、研修

### ○専門医

日本内科学会 総合内科専門医1名

日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医1名

### ○認定医

日本内科学会 認定内科医2名

日本医師会 認定産業医1名

■入院診療実績

○2020年度入院患者数（月別患者数）

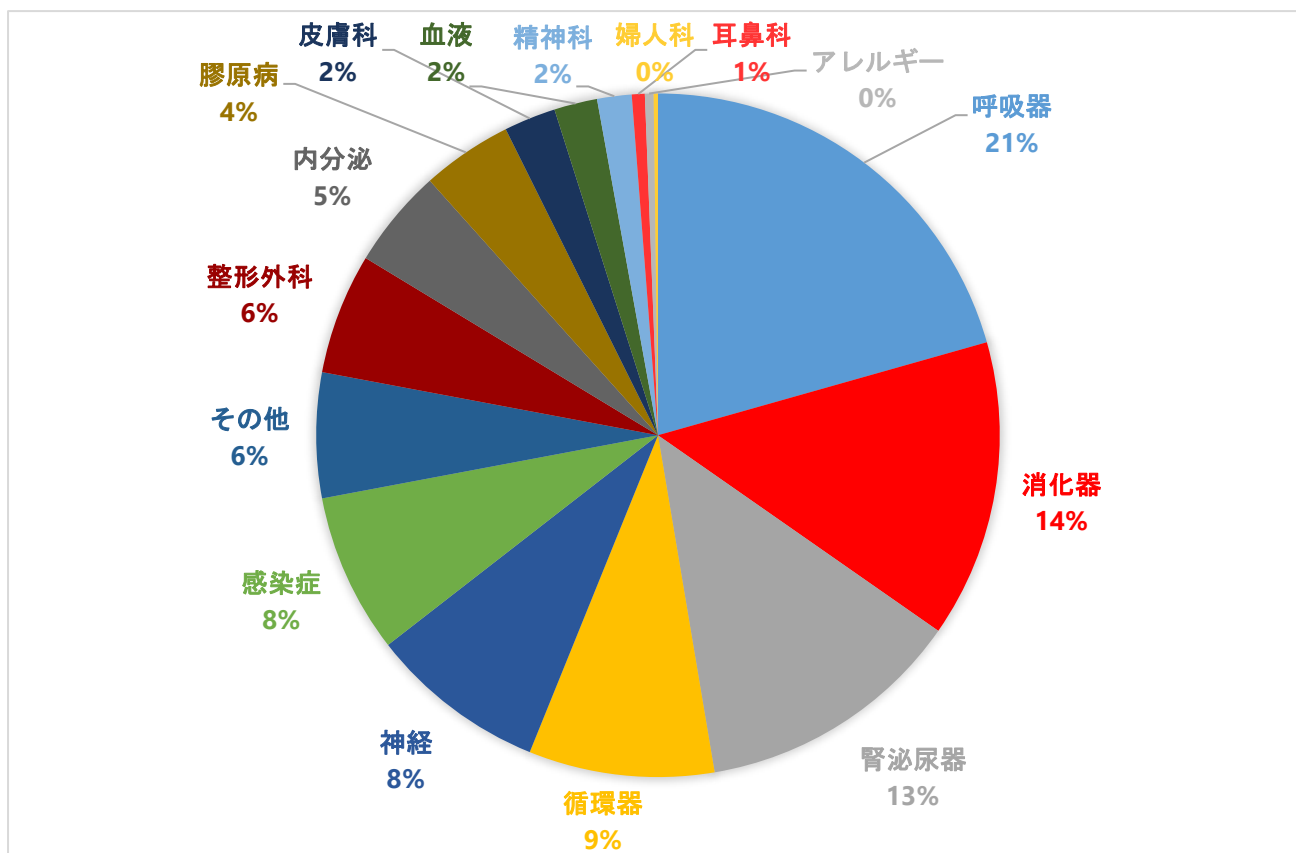
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
32	30	30	39	39	56	47	30	42	57	44	58

（医事課データ参照）

今年度は、世界的な COVID19 感染拡大に伴い、当院でも発熱外来を設置することとなり、発熱患者の入院初療を当科で担っていたため、入院患者数が昨年よりも急増しています。

○2020年度入院患者の内訳

（退院サマリーデータより作成 合計 490 名、転科症例含む、内訳は%で表示）



入院患者の疾患内訳は、昨年度と変化はありませんでした。（今年度は COVID19 感染症患者の入院受け入れを 5 名行いました）また、上記入院患者に加え、整形外科、外科、皮膚科で入院されている患者さんで内科疾患のサポートが必要な場合、JNP さんと協力のもと併診をさせていただいています。

## ■外来診療実績

### 2020 年度新患患者数（月別患者数）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
26	27	28	43	50	42	34	24	25	39	31	33

（医事課データ参照）

地域連携室を介し紹介状を持参される患者さん、当日紹介状を持たずに受診される患者さんの初診外来の役割を担っています。今年度は、COVID19 感染症流行拡大に伴い旧 6 病棟に発熱外来を設置し、当院を受診される発熱患者の窓口として発熱患者の初療を行いました。

## ■発熱外来患（月別患者数）

### 発熱・感冒様症状外来使用数

	発熱外来患者数
3/16 - 4/30（旧 6 病棟）	124
5 月	40
6 月	42
7 月	85
8 月	113
9 月	95
10 月	61
11 月	71
12 月	93
1 月	148
2 月	163

3月	162
合計	1197

発熱外来は、小児科兼任で小森医師を中心に小児、成人発熱患者の外来初療を担っていただきました。（救急車対応も含む）成人発熱患者で入院が必要な場合には、当科で診療を引き継ぐような方法で診療を行っていました。

#### ■将来への展望

診療面では、新型コロナウイルス流行は、しばらく続いていくことが予測され、発熱外来とそこからの入院患者を中心の診療を継続していく。昨年度同様高齢者の受診、入院が見込まれ、入院となった疾患のみならず、背景疾患を考えながら今後のケアの方針（アドバンスケアプランニング）に対し継続して取り組んでいく。昨年度はポリファーマシー（薬剤の多剤内服）問題に対し薬剤部と連携を開始したが、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、カンファレンスを十分に行うことができなかったため、今年度は定期的な多職種カンファレンスを開催する。また、長崎医療センター総合診療科から協力依頼のあった多施設共同研究に参加を予定している。

#### ■研究実績

○競争的研究資金の獲得

なし

○原著論文

なし

○学会発表

なし

# 診療部－小児科－

---

## ■診療科の特色

小児科では、15歳未満（中学生以下）の患者の診療を行っている。

東彼地区は小児の医療施設が少ないこともあり、地域の小児医療を展開している。

診療医師がひとりであり、入院治療・夜間診療は行っていない。

## ■外来診療実績（2020/4/1～2021/3/31）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小児一般	183	114	171	173	127	131	187	141	150	112	122	109
予防接種	35	37	46	46	51	30	32	62	32	24	19	25
乳児健診	3	11	14	6	4	7	3	7	5	4	3	2

# 診療部－皮膚科

---

## 1. 診療科の特色

当診療科では患者様の皮膚一般の診療を行なっています。近隣の開業医の先生方からのご紹介を中心に重症アトピー性皮膚炎などの湿疹皮膚炎群、コントロール不良の尋常性乾癬患者への外用、内服、光線治療を施行しています。入院治療としまして皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍の手術、蜂窩織炎、带状疱疹等の皮膚感染症に対する治療も施行しています。また、院内では他科入院中の患者様の皮膚真菌症、褥瘡、薬疹、点滴漏れなどの診療依頼がありセーフティネット的な役割を担っています。これからも当科は地域医療、院内診療の円滑化のため尽力する所存です。

## 2. 入院診療実績

入院総数	96 件
平均在院日数	22.6 日(一般病棟：10.1 日)

### 外来光線数

308 件(340 点/回)

### 手術件数

外来：30 件

入院：78 件

## 3. 学会発表

日本皮膚科学会 長崎地方会 第 343 回 平滑筋肉腫との鑑別に苦慮した SMA 陽性異型線維黄色腫の一例

# 看護部－理念・基本方針－

---

私たちは、“よりよく生きる”を支える看護を提供致します

## 【基本方針】

1. 患者に信頼される安全で安心な看護を提供します
2. 知識・技術・人格を磨き、自律し実践できる看護師を育成します
3. 各医療チームと協働し、患者中心のチーム医療を推進します
4. 看護・教育・研究を通して地域に貢献します
5. 組織の一員として病院経営に参画します

# 看護部-目標評価-

看護部長 白石 早苗

## 【スローガン】

どうしたらできるかを考えよう！

## 【一般目標】

1. 患者の安全と安心を守る、質の高い看護・介護の提供
2. 患者・家族と看護職員双方が満足できる看護体制の確立
3. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に添ったケアの提供
4. 一人ひとり、全員で経営に参画

## 【行動目標】

1. 各部署にあった看護体制の確立および充実
2. 勤務時間に合わせて業務を再構築する
3. 多職種による臨床倫理カンファレンス及び ACP の実践
4. 専門職としての適切な医療安全管理及び感染管理の実践
5. 入院時から退院後の生活を見据えた生活指導・退院支援の実践
6. 質の高い看護を提供できる看護師の育成
7. 組織の一員として経営改善へ参画

## 【評価】

一般目標 1・2 については、看護師長会による「看護体制グループ」「働き方改革グループ」「看護管理能力向上グループ」を作り活動した。患者のよりよく生きるを支える看護、安心・安全な看護の提供のため、固定チーム体制の定着は急務と考えた。業務改善を進めながら、運用手順の作成、副看護師長による他者監査の実施、看護業務内容の見直し、病棟看護師への意識調査等、現状把握を行いながら問題と課題の認識統一を図った。年 2 回の業務量調査結果より、勤務終了間際に集中していた記録はタイムリーな記録への経時的変化、看護師の意識の変化が見られた部署は 1 病棟のみであった。患者のベッドサイドにいる時間やケア時間の変化はみられなかった。インシデント件数は、転倒転落は昨年比より 4 件減であったが、患者誤認は昨年比より 6 件増であった。基本的なことを確実にやっていくことをスタッフ一人ひとりが意識し、チームとしても風土を育てていく必要がある。患者の安全と安心を守るように、ベッドサイドにいる時間やケア時間を確保しながら、引き続き、看護体制の定着、業務の効率化に取り組んでいく必要がある。そのためには、自律した人材の育成や看護管理者により意図した関わりが必要である。看護師長はコンピテンシー・モデルを用いた事例検討、経験学習ノートを活用した面談にて、各自自己の強みや弱みを自覚し、意図したコンピテンシーを活用してきている。今後も継続して、取り組み過程や目標達成において、意図的に活用できることを期待している。

一般目標 3 については、緩和ケア・ACP 推進委員会にて多職種にて事例検討や「私の心づもり確認シート」の運用検討を行っている。看護管理者による看護記録監査において「患者・家族の思いや希望、価値観についての情報収集」項目評価は、2020 年 5 月 7%が 2021 年 1 月 53%と上昇し、看護師も意識した関わりになってきた。各部署での倫理カンファレンスの推進はレベル V 受講生を中心に実施していったが、「倫理」を難しく捉えている状況も伺えた。看

護ケアに対する患者・家族からのご意見もあり、部署全体で「倫理」を日々の看護実践の中に身近にあるものとして、倫理観の醸成を図っていく必要がある。今後は、日々の「もやっとする事」を4分割シートに組み入れた「もやっとしてシート」を用いた倫理カンファレンスを積極的に行い、ケアにつなげていく。

一般目標4については、看護師長を中心にベッドコントロールを行い、今年度患者数204.2人と昨年比より10人増であった。時間外勤務が増加している部署もあり、今後も業務改善や業務の効率化の継続取り組みが必要である。看護必要度割合は医師、経営企画室と協働しながら取り組み、評価精度向上に向け看護業務委員会を中心に定期的な監査を行った。

# 看護部－3階病棟－

病棟師長名 蛭原 勇治

## 基本方針

基本的な事を確実にやり、安心安全な医療・看護の提供を行う。

## 目標

1. 固定チームナーシングの充実とチーム力の強化
2. 働き方改革に伴う業務時間の見直しと年次休暇の計画的取得
3. 退院支援カンファレンスの実施の徹底
4. 重症度、医療・看護必要度の評価精度の向上と基準越え 31%維持
5. マニュアルに沿った行動の遵守とインシデントカンファレンスの実施の徹底
6. ACP の理解と倫理カンファレンスの実施

## I. 病床数構成 総病床数：60 床

外科、循環器内科、脳外科、整形外科、消化器内科

## II. 患者の動向（2020 年度）

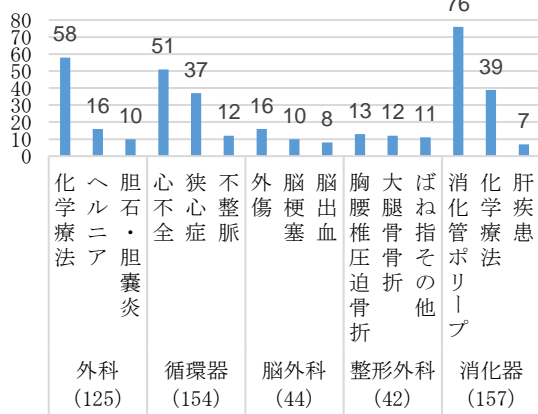
入院患者数	853 名
一日平均患者数	38.7 人
平均在院日数	15.14 日
平均年齢	72.0 歳
病床利用率	64.5%
CP 使用率	36.3%
看護必要度	38.33%
手術件数	248 件
心臓カテーテル検査	44 件
CHDF 実施件数	7 件
化学療法	97 件
EMR	54 件

### Ⅲ. 看護職員数 (4/1 現在数)

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	23名
看護助手	1名

### Ⅳ. 主な疾患・治療・検査

診療科・疾患別入院患者



手術件数

外科 (99)	ヘルニア手術	23件
	胆嚢摘出	18件
	結腸切除	14件
循環器 (12)	ペースメーカー植込 (交換含む)	12件
脳外科 (36)	脳刺激装置植込 (交換含む)	21件
	慢性硬膜下血腫穿頭	8件
整形外科 (65)	観血的手術 (大腿)	23件
	人工骨頭挿入 (股)	14件

## **V. 看護**

3階病棟は術後や急性期にある患者の観察・ケアを行っている。また心不全や糖尿病など退院後の生活を見据えた患者指導も積極的に行っている。チームで協働できるよう固定チームナーシングを導入し、また、更衣時間を含めた勤務時間の見直しや業務改善を行い職場環境整備を行った。病棟では、入院時から退院を意識した関わりを行い、地域連携室と積極的に連携と図り退院支援を行った。また、インシデントカンファレンスが確実に実施できるよう環境や手順を整え、マニュアルやルールを遵守した行動を徹底するよう関わった。

## **VI. 看護研究・学会発表**

深州恵利花：急性期病棟入院患者の転倒事故の発生状況と関連要因（院内研究発表）

# 看護部－4階病棟－

病棟師長名 穎川 俊也

## 基本方針

1. 効果的な病床管理・経営への参画
2. 看護体制の見直し
3. 患者・家族が安心して自宅(施設)退院、転院ができる退院支援の実施

## 目標

1. 病床利用率 90%(50床)、在宅復帰率 70%、地域包括ケア看護必要度評価 14%を目指す
2. “患者に安心・安全な看護の提供”を目的とした看護体制の見直しを行う
3. 多職種と連携し、患者・家族が安心して退院後の生活を過ごすことのできる退院支援を行う

## I. 病床数構成 総病床数：55床

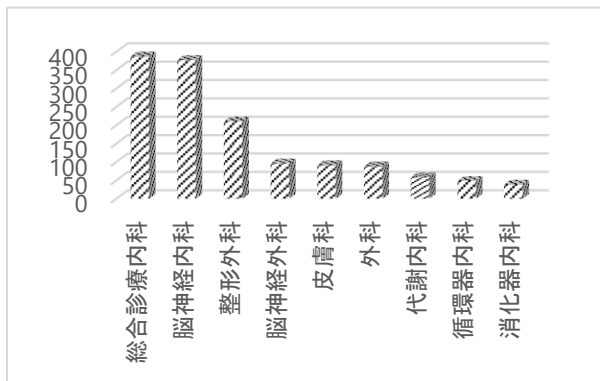
## II. 患者の動向（2020年度）

入院患者数	21名
一日平均患者数	51.5人
平均在院日数	22.6日
平均年齢	77.3歳
病床利用率	93.6%
CP使用率	21.2%
看護必要度	20.8%
在宅復帰率	82.5%

## III. 看護職員数（4/1現在数）

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	23名
看護助手	2名

#### IV. 主な疾患・治療・検査



#### V. 看護

##### 1. 病床管理・経営への参画

地域連携室、一般病棟看護師長と毎日病床会議を実施。病床利用率 93.6%、在宅復帰率 82.5%、地域包括ケア看護必要度評価は 20.8%であった。

##### 2. 看護体制の見直し

固定チームナーシングを導入。業務量調査を実施し、業務内容の整理・検討を行った。「タイムリーな看護記録」や「夜勤者の業務委譲」などの業務改善に取り組み、超過勤務は4月～6月は月平均 178.5 時間であったが1月～3月は平均 17.4 時間と減少に繋げることができた。転倒・転落予防の取り組みとしてウォーキングカンファレンスを開始。2019 年度 35 件であった転倒件数は 31 件と減少傾向にある。

##### 3. 退院支援

医師や地域連携室、リハビリ科と週に 1 回多職種カンファレンスを開催し、退院後の支援などについて検討を行った。家族や地域のケアマネージャーや訪問看護師なども退院前カンファレンスを実施し、退院後の生活を見据えた調整を行うことができた。

#### VI. 看護研究・学会発表

##### 1. 松永亮太、森奈津子、颯川俊也

第 42 回 長崎県地域医療研究会

ウォーキングカンファレンス導入後の効果

～スタッフの意識調査より～

# 看護部－5階病棟－

病棟師長 福本 明美

## 基本方針

1. 患者に信頼される安全で安心な看護の提供
2. 知識・技術・人格を磨き、自立し実践できる看護師を育成
3. 各医療チームと協働し、患者中心の医療を推進
4. 看護・教育・研究を通して、地域に貢献
5. 組織の一員として病院経営に参画

## 目標

1. 患者の安全と安心を守る、質の高い看護・介護の提供
2. 患者・家族と看護職員双方が満足できる看護体制の確立
3. アドバンスケア・プランニング（ACP）に沿ったケアの提供
4. 一人ひとり、全員で経営に参画

## I. 病床数構成

総病床数：55床

脳神経内科、脳神経外科

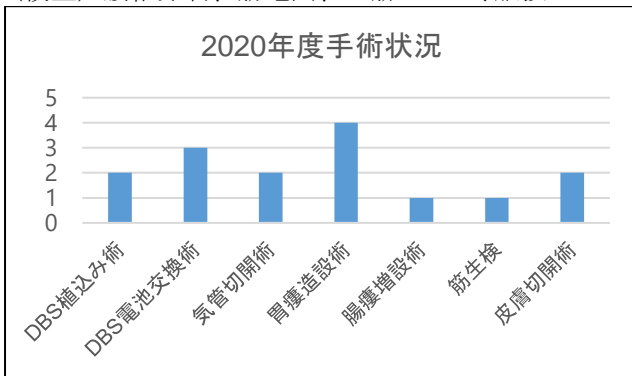
## II. 患者の動向（2020年度） 3/10現在

入院患者数	666名
1日平均患者数	39.8名
平均在院日数	18.7日
平均年齢	64.8歳
病床利用率	72.2%
CP使用率	13.8%
看護必要度	27.2%
手術件数	17件
レスパイト入院件数	42件
モニタリング件数	40件
転倒・転落件数	43件
褥瘡新規発生件数	12件

### Ⅲ. 看護職員数 (4/1 現在数)

看護師長	1 名
副看護師長	2 名
看護師	26 名
看護助手	2 名

(疾患) パーキンソン病、ALS、多発性硬化症、SCD、CIDP、MD、脳梗塞、てんかん等  
(治療) 免疫抑制剤等進行抑制、内服調整、  
リハビリ、DBS 調整  
(検査) 腰椎穿刺、筋電図、心筋シンチ、脳波モニタリング、ダットスキャン



### Ⅴ. 看護

#### 1. 固定チームナーシングの導入

病棟の現状を分析し、固定チームナーシングを導入した。リーダー会、チーム会を通して業務スケジュールの見直しを行った。協力性はあるが、チームでの情報共有やケアの充実が課題である。また、タイムリーな看護記録入力、専門領域に対する知識・技術の向上、他診療科領域の知識、技術の習得も課題である。

#### 2. 各勤務帯の業務内容の見直し、検討を行う

更衣時間を含めた勤務時間での業務手順の修正を行った。6月、12月の業務量調査の結果を開示し業務改善を行った。超過勤務が慢性的にあり、スタッフの健康面への影響や疲弊感等の労務状況の改善のための勤務体制の検討が必要である。

#### 3. 在宅支援マニュアルの作成、多職種カンファレンスを実施し退院指導の実践を行う

在宅支援マニュアルは検討後、完成した。今後患者に応じ、退院支援にも活用していく。

#### 4. 病床利用率 80%(44床) 平均在院日数 18日以下を意識した病床管理を行う。

看護体制の見直したことで、受け持ち患者を担当する機会が増え、医師や地域連携室と連携した退院調整が行えるようになった。また包括ケア病棟や8病棟と連携した長期的な看護ケアの継続を行っていく。

### Ⅵ. 看護研究・学会発表

なし

# 看護部－6階病棟－

病棟師長 中村 佳永子

## 基本方針

1. 患者に安心・安全な看護が提供できる看護体制の検討
2. 働きやすい職場づくりを行う
3. 組織の一員として病院経営に参画する

## 目標

1. 患者・家族と看護職員双方が満足できる看護体制の確立
2. 患者の安全と安心を守る、質の高い看護・介護の提供
3. 一人ひとり、全員で経営に参画

## I. 病床数構成 総病床数： 55 床

一般病床 50 床 結核病床 5 床

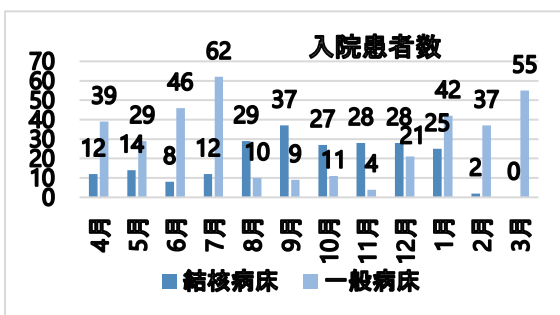
## II. 患者の動向（ 2020 年度）

入院患者数	5835 名
一日平均患者数	17.0 名
平均在院日数	16.0 日
平均年齢	75.8 歳
病床利用率	31.4%
CP 使用率	10.6%
看護必要度	30.75%
手術件数	8 件
新型コロナ陽性患者数	6 名
新型コロナ疑似患者数	416 名

### Ⅲ. 看護職員数（4/1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	24名
看護助手	1名
業務技術員	2名

### Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



8月から新型コロナウイルス陽性患者・擬似患者の受け入れ病棟として、発熱、感冒症状患者受け入れ専門病棟となっている。主な疾患は、肺炎、尿路感染、胆管炎、腎盂腎炎、蜂窩織炎、結核疑いであり、PCR、TRCを実施している。

### Ⅴ. 看護

#### 1. 患者に安心・安全な看護を提供するために固定チームナーシングを導入、実践する。

固定チームで患者に関わり、患者一人ひとりに対して情報共有した上で計画や目標設定を行い、チームで、看護実践することができた。発熱外来やトリアージなどの業務開始に伴い、勤務時間や業務内容の見直しを行い時間外勤務縮減に努めた。

#### 2. 感染予防対策の実践およびカンファレンスの充実を図り患者に安心・安全な看護を提供できる。

新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるために、ICTと協力して感染管理について話し合い体制作りを行った。日々、カンファレンスを行い患者の状況に応じた看護計画の評価・修正を行い、継続した看護を提供できるように努めた。感染症以外の患者は入院後、他病棟に転棟となることが多いため、継続看護が実践できるように引き継ぎを行った。

#### 3. 病院経営への参画

必要度の新基準やコードの勉強会を行い、理解を深め、確実な実施に努めた。

### Ⅵ. 看護研究・学会発表

院内研究発表「内科急性期混合病棟に勤務する看護師の仕事ストレス感」村上千紘

# 看護部－8 病棟－

病棟師長 酒井 真澄

## 基本方針

1. 患者に信頼される安全で安心な看護を提供します
2. 知識・技術・人格を磨き、自律し実践できる看護師を育成します
3. 各医療チームと協働し、患者中心のチーム医療を推進します
4. 看護・教育・研究を通して、地域に貢献します
5. 組織の一員として病院経営に参画します

## 目標

1. 患者の安全と安心を守る、質の高い看護・介護の提供
2. 患者・家族と看護職員双方が満足できる看護体制の確立.
3. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に沿ったケアの提供
4. 一人ひとり、全員で経営に参画

I. 病床数構成 総病床数：60 床  
(療養介護サービス対象病床：54 床)

## II. 患者の動向 (2020年度)

入院患者数	4名
一日平均患者数	57.17名
平均在院日数	—
平均年齢	64.2歳
病床利用率	95.3%
CP 使用率	0
手術件数	2件
人工呼吸器平均使用数	41.04台

### Ⅲ. 看護職員数（4/1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	36名
療養介助専門員	15名
看護助手	1名
業務技術員	1名

### Ⅳ. 主な疾患・治療・検査

筋委縮性側索硬化症：14名

筋ジストロフィー：26名

パーキンソン病：5名

多系統萎縮症：3名

遠位性ミオパチー：2名

進行性核上性麻痺：2名

その他：脳梗塞後遺症、遺伝性小脳性運動失調症、ウェルドニッヒ・ホフマン病、多発性硬化症、脊髄性筋萎縮症

### Ⅴ. 看護

#### 1. 質の高い看護（介護）を提供できる人材育成

- ・レベルⅠ、レベルⅡは研修目標に沿って、実地指導者の支援を受けながら課題を一つずつクリアできている。レベルⅢ以降の自己研鑽力が弱い。根拠ある看護の提供のためにも、後輩指導のできるスタッフの育成、リーダーとして広い視野で病棟を見ることのできるスタッフの育成を継続していく。

#### 2. 患者満足度

- ・人工呼吸器のチェック方法や時間帯を見直し、患者の安全の確保に努めた。
- ・COVID-19 感染防止のためにも手指消毒使用量・遵守率の向上のためリンクナースを中心に取り組んだ。使用回数は25回維持、遵守率は70%維持できている。防護服の着脱動画も職員全員聴講済である。感染予防の意識を高く持ちケアすることができた。
- ・各種カンファレンスは日々実施できた。今年度は、患者の個別性のある看護計画立案を目標に、記録委員会を中心に取り組んだ。看護師、療養介助専門員が共に患者情報を共有し、患者のあるべき姿に近づけるような看護（介護）を展開できるようになってきている。

#### 3. 働き方改革に対応できる業務内容の見直し

- ・チーム制を導入することにより、患者情報のチーム内の共有が容易になった。半面、他チームの情報や重症者の情報共有ができにくくなったことが課題である。
- ・患者の生活リズムを変えることなく業務改善を実施できた。勤務時間内の記録時間の確保や時間、業務の調整力のあるリーダーの育成が必要である。

#### 4. 病院計画への参画

- ・QC活動でコスト削減に取り組み、スタッフのコスト意識を高めることができた。

- ・神経筋難病患者の外部の待機情報も少なく、病床利用率が減少傾向にある。病床利用率が低下する中、スタッフの超過勤務時間が著しく増加している。業務量調査の結果をもとに、業務調整や支援体制を強化する必要がある。

## VI. 看護研究・学会発表

第42回長崎県地域医療研究会

「神経筋難病病棟に勤務する看護師のデスク  
カンファレンスに対する思い」 酒井真澄

院内発表

「神経筋難病病棟患者が抱える心理・思い」

# 看護部－手術・中材－

看護師長 松尾多美子

## 基本方針

- 1.各部署と連携を図り、安全で質の高い手術  
医療を提供する
- 2.安全で専門性の高い内視鏡検査・治療を提  
供する
- 3.院内で使用する医療器材を管理し、安全で  
確実な物品供給を行う

## 目標

- 1.患者に必要な医療が提供できるように、専  
門知識と技術を高め、対象に合わせた適切な看護を提供する
- 2.医療器材の適正な洗浄消毒滅菌と保管管  
理を行い、院内で使用される医療器材を安  
全で確実に供給する

### I. 病床数構成 手術室 3 室（BCR1 室）

内視鏡室 2 室、心カテ室 1 室

### II. 患者の動向

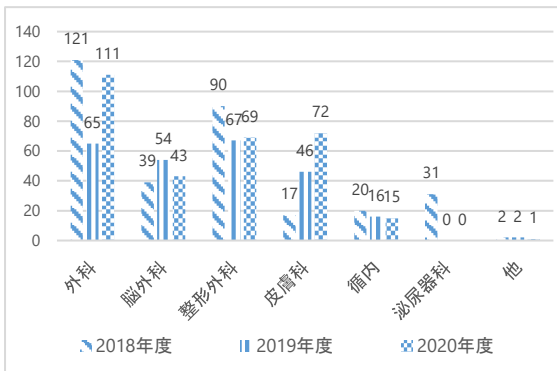
月平均手術数	25.9 件
手術平均年齢	70.5 歳
緊急手術件数	34 件
麻酔科麻酔件数	94 件
自家麻酔・局麻症例数	217 件
月平均内視鏡検査数	76.2 件
緊急内視鏡検査数	52 件
月平均心カテ件数	4.8 件

### Ⅲ. 看護職員数（4/1 現在数）

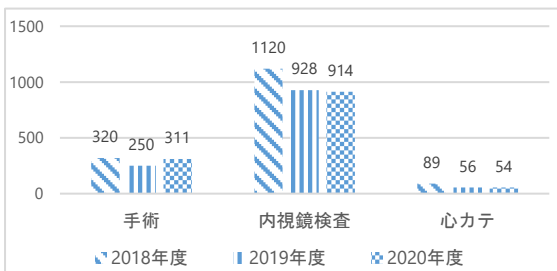
看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	6名
非常勤看護師	1名

### Ⅳ. 手術・検査実施件数

#### 1. 診療科別手術件数推移



#### 2. 手術・検査件数推移



### Ⅴ. 看護

#### 1. 全員が緊急含めて全ての手術・内視鏡処置

心臓カテーテル検査の介助ができる。

個々の経験を確認しながら、症例の少ない手術や検査は見学やシミュレーションを行い、対応力の向上を図り、今年度配置の4名全員が緊急手術・内視鏡の呼出可能となった。

## 2. 周術期・検査時における看護の質の均一化

を図る

術前訪問、術後訪問の未実施防止の為、担当者以外でも行うよう調整し訪問率 100%となった。訪問で得た情報はカンファレンスで共有し、患者に合わせた看護計画や人員調整を行い安全な手術・検査の実施につなげている。

手術手順書・検査手順書の見直しに取り組み、全員が同じ準備、手順で介助出来るようにした。事前確認と事後修正、情報共有を継続していく。

## 3. 医材や薬剤の期限切れや廃棄物を最小限に

する

QC 活動でも取り組み、廃棄消耗品の金額を提示したことで、使用料の少ない医材の定数見直しと削減を行い 77 万円の在庫整理を行えている。

## 4. 業務時間を有効に使い、病院の患者対応に

貢献する

情報収集を夜勤時間に行うようにし、  
応援時間の増加を図っている。

今年度より各部署の期限切れチェックを中央材料室職員が行い、部署の負担の軽減と保管状況の確認に繋がっている。

## VI. 看護研究・学会発表

院内看護研究発表

「上部内視鏡検査に携わる看護師の危機予

測行動の要因を知るための予備研究

～体動防止の予測行動～」 福島祐樹

# 看護部－外来－

---

看護師長名 毛利 由加

## 基本方針

1. 予約診療を基本とし、各診療科・地域連携室との連絡・調整を密に行い迅速でスムーズな診療が受けられるよう配慮する。
2. 常に患者へ目と心に向け、細やかな対応による診療介助を行い、患者の不安や苦痛軽減に努める。
3. 患者のプライバシーが守られるよう、環境への配慮・個人に関する情報の管理を徹底する。
4. 患者に安心して気持ちよく受診していただけるよう清潔で安全な環境整備に努める。
5. 外来で行われる検査や手術についてクリティカルパスやパンフレットを使用し、患者の十分な理解と納得が得られ、安全で確実な看護実践を目指す。
6. ネットワークを活用し地域に根差した質の高い医療の提供を目指す。

## 目標

1. 各科人材の育成のため、リーダー制の定着を図る。
2. 各科診療介助、発熱外来の業務手順を見直し、円滑な診療を行う。
3. 適切な人員配置、スタッフ同士の情報共有を密にし、スムーズな外来業務ができる。
4. 医療安全に関する意識の向上と、リスク感性の醸成を図る。
5. 患者への継続看護の充実を図る。

**I. 診療科構成** 脳神経内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、総合診療内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、小児科、放射線科、歯科

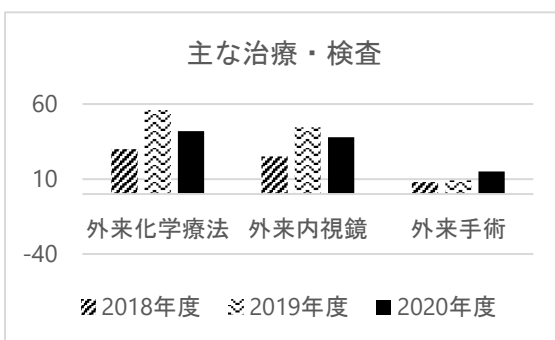
## II. 患者の動向（2020年度）

1日平均外来患者数	124.6名
新患者数（平均）	366.8名
延患者数（平均）	2514名
紹介患者数（平均）	171.7名
逆紹介患者数（平均）	216.8名
救急患者数（平均）	118名
救急車台数（平均）	42件

## III. 看護職員数（4/1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	7名
非常勤看護師	4名
外来クレーク	3名
看護助手	1名

## IV. 主な疾患・治療・検査



外来化学療法（平均）	3.5件
外来内視鏡（平均）	38.3件
外来手術（合計）	18件
皮膚生検（合計）	45件

## V. 看護

1. リーダー制の充実及び専門診療科担当制とし、診療科毎に複数担当者を決定し、診療科担当の不在が生じることはなかった。
2. 各科診療介助や発熱外来の業務手順、外来化学療法マニュアルの作成・整備を行った。
3. 就業前後 10 分間の更衣時間導入にむけ、業務量調査を実施。診療開始・終了に人員が不足しないよう早出・遅出の配置し、診療開始の遅滞や人員不足は生じなかった。
4. インシデント発生件数 29 件、レベル 3a : 4 件発生した。(抗がん剤・造影剤血管漏出、患者誤認) インシデントカンファレンス 100%、RCA 分析を 2 回実施し再発予防、体制強化に努めたが知識不足、確認不足が要因の事例も多く、さらに強化が必要である。
5. 病棟からの在宅支援介入依頼件数月 3 件、通院患者の継続支援月平均 21.6 件実施。看護記録充実による外来・病棟間の連携強化を図った。

## VI. 看護研究・学会発表

なし

# 看護部－訪問看護ステーション－

浦部 優子

## 基本方針

1. 利用者・ご家族の皆様の思いを尊重し、安心・安全で良質な訪問看護を提供します
2. 養気軒の精神で、利用者・ご家族中心の全人的ケアを提供します
3. 利用者・ご家族の権利・維持を尊重し、同意に基づき良質な訪問看護を提供します
4. 常に知識・技術・人格を磨き、自己研鑽に努め、明るく温かで安心がもてる看護を提供します
5. 医療・保健・福祉など地域関係機関との細やかな情報交換に努め、地域に開かれたステーションを目指します

## 目標

1. 地域に必要な訪問看護に応えられるよう利用者を受け入れ、利用者、家族の希望に沿った看護の提供を行う
2. 在宅、施設で安全安楽に過ごすことができるようかかりつけ医・地域介護スタッフと連携を取り関わる
3. 訪問看護知識技術の向上に努め、利用者に提供できる

## I. 利用者総数 46 名

(指定申請)

難病医療費助成・生活保護医療機関指定

指定小児慢性特定疾患・指定自立支援

労災保険指定訪問看護

## II. 患者の動向 (2020 年度)

利用件数	2859 件
1 か月平均利用件数	238 件
1 か月平均利用者数	26 名
1 か月平均訪問看護件数	197 件
1 か月平均訪問リハビリ件数	40 件
新規利用者数	16 件
緊急訪問	64 件
死亡利用者数	9 件

緊急訪問	50件
退院時共同指導加算	15件
退院時支援指導加算	7件
ターミナルケア	9件

### Ⅲ. 看護職員数（4/1 現在数）

看護師長	1名
看護師	4名
事務	1名
理学療法士	1名

### Ⅳ. 主な疾患

1. 悪性腫瘍（大腸癌、肺癌、胃癌、上顎癌、）
2. 神経難病（パーキンソン病、多系統萎縮症）
3. 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）
4. 心疾患（慢性心不全、高血圧）
5. 呼吸器疾患（間質性肺炎、COPD）
6. その他（糖尿病、認知症）

### Ⅴ. 看護

1. 新規依頼は可能な限りスケジュール調整し介入した。利用者、家族の希望に沿ったサービスを提供した。ターミナルの利用者を積極的に受け入れ対応した。2月より登録ナースを開始し看護体制の強化、新規の受け入れ、ケアの充実を図っている。
2. 利用者のかかりつけ医ケアマネージャー、地域の介護スタッフと情報共有に努め連携して関わった。
3. 訪問看護に関する研修への参加、毎週勉強会や事例検討を実施し知識、技術の向上を図った。アドバンスケアプランニングの勉強会や倫理カンファレンスを行った。

### Ⅵ. 看護研究・学会発表

木口綾子

- ・日本在宅看護学会交流集会

「訪問監視による受診支援の意義と支援基準について考える」

- ・共同研究：「訪問看護師による受講支援の意義と支援基準について」

・研究協力：

「専門看護師の資格を有する筋萎縮性側索硬化症療養者・家族の病期に沿った意思決定支援」

「新型コロナウイルスが介護・高齢者支援に及ぼす影響と現場での取り組み・工夫に関する緊急調査（介護保険サービス事業所調査）」内容分析一部担当

# 薬剤部－薬剤科－

## 1. 概要

薬剤部目標は、①医薬品の適正使用及びチーム医療の推進（病棟薬剤業務の充実、薬剤管理指導、特にハイリスク薬及び麻薬服用患者への指導の充実、退院時薬剤情報管理指導件数の充実、外来患者に対する薬学的管理の充実）②医療安全の推進（ヒヤリ・ハット事例の収集と対応策の検討、疑義照会事例の収集及び情報共有並びにプリアロイド報告の推進）③病院経営への参画（後発医薬品の使用促進、医薬品在庫の適正化、退院時薬剤情報連携加算への取り組み、薬剤総合評価調整加算への取り組み、がん患者指導管理料「八」の算定）④臨床研究の推進（学会発表）を掲げ、業務改善・質の向上につながる取り組みを行った。

## 2. 調剤業務

### （1）内用・外用

外来患者については、院外処方を原則としていることから、薬剤部では主に入院患者の調剤を行っている。当院は高齢の患者が多いことや筋ジス病棟があることから、簡易懸濁法や一包化による調剤を積極的に行っている。医療安全に関しては、薬剤部のヒヤリ・ハット事例を分析し、複数規格医薬品、名称類似医薬品など取り違いのリスクが高い医薬品について、処方せん等の医薬品の規格の強調、医薬品名に色を着ける表示や医師がオーダー入力する際に注意喚起のメッセージが表示される工夫も実施している。

#### 【処方せん枚数】

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
入院	29,929	29,306	24,956	20,382	22,642
外来院内	1,455	1,783	1,218	1,214	1,303
外来院外	19,456	21,807	20,971	22,220	19,418

### （2）注射

注射薬は医療安全を推進する観点から、患者毎に一施用ごとの払い出しを行っている。また、取り揃え時と監査時のダブルチェックにより用法・用量等に加え投与速度及び配合変化等の確認を行っている。患者施用ごとの注射ラベル（バーコード付）を発行し、注射剤に添付して払い出ししており、実施時にバーコードによる認証を行うシステムとなっている。今年度は「取扱いに注意を要する薬剤マニュアル」を医療安全管理室と共同で作成した。

【注射せん枚数】

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
入院	44,482	41,435	31,223	23,310	25,657
外来	1,811	1,632	1,652	1,701	1,694

3. 製剤業務

業務として抗がん剤調製や特殊な T P N 調製（中心静脈栄養）などの無菌調製および院内製剤を行っている。抗がん剤調製は、医療安全及び暴露防止の観点から、原則全て薬剤師が調製を行っている。抗がん剤のレジメンは外来化学療法委員会で承認されレジメン登録されたもののみ使用可能となっており、薬剤師による確認の他、システムで投与量及び休薬期間等のチェックを行っている。

【無菌調製件数】

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
抗がん剤	入院	290	217	100	74	99
	外来	78	66	39	59	35
T P N	入院	51	22	26	12	87

4. 医薬品情報管理業務

医薬品情報については、毎月厚生労働省から発刊される「医薬品・医療機器等安全性情報」を電子カルテの掲示板にて情報提供するとともに医薬品に関連する通知等についても必要に応じ情報提供している。2017年度よりプレアボイド報告を積極的に行うことを目標に取り組んでおり、報告した事例のうち、特に注意すべき事例の内容については情報共有を行っている。

【日本病院薬剤師会へのプレアボイド報告件数】

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
14	58	59	56	27

## 5. 医薬品管理業務

医薬品の採用は薬事委員会で決定することとされており、1増1減を原則としている。後発医薬品への切り替えを推進しており、新しく発売される後発医薬品を積極的に薬事委員会に提案し切り替えを行った。2020年度は17品目を後発医薬品へ切り替え、購入額を約695万円削減できた。来年度においても高額な医薬品をはじめ新規に発売される後発医薬品について随時提案して、病院経営に貢献していきたい。

今年度はこれまでになく複数の製薬会社で医薬品回収および供給停止などが相次ぎ、その対応に苦慮した。患者に迷惑をかけることがないように日頃より情報のアンテナを張り、在庫管理を気に掛けていきたいと考える。

### 【医薬品採用品目数】

2019年度		2020年度	
内用薬	454（後発品：219）	内用薬	452（後発品：221）
外用薬	155（後発品：63）	外用薬	156（後発品：57）
注射薬	365（後発品：121）	注射薬	364（後発品：111）
合計	974（後発品：403）	合計	972（後発品：389）

## 6. 病棟業務および入院支援

病棟薬剤業務実施加算では、医師の負担軽減及びチーム医療の推進等に取り組んでいる。禁忌薬やアレルギー歴の確認、肝腎機能に応じた処方提案、持参薬に基づく当院処方の提案や処方薬に問題はないか確認を行っている。

薬剤管理指導では、主に患者が医薬品を服用した後の副作用モニタリング等を行っており、副作用に対する支持療法の処方提案、副作用を回避するための代替薬の提案、定期的な検査を必要とする薬剤に対して検査オーダーの提案などを行っている。特にハイリスク薬を服用する患者について、安全使用を念頭に実施してきた。退院時指導については、退院後の服薬管理に役立てられるよう今後も努めていきたい。

2018年度より、タスクシェアリングのひとつとして薬剤部が入院支援センターにおいて手術や観血的処置予定患者および造影検査予定患者の内服薬を把握し、中止する薬剤がないかどうかの確認を行い対応している。

### 【薬剤管理指導及び退院時薬剤情報管理指導件数】

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
薬剤管理指導 (ハイリスク薬)	4,996 (2,086)	4,694 (2,058)	4,598 (2,397)	4,115 (1,970)	4,425 (1,639)
退院時薬剤情報 管理指導	749	700	793	686	608

【入院支援センター薬剤師関与件数】

2018年	2019年	2020年
198	238	210

# 薬剤部－治験管理室－

## 【概要】

当院の診療圏は、長崎県北部を中心に佐賀県西部地区まで広くカバーしている。また、県央地域保健医療圏の二次救急医療機関である。神経・筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（以下、ALS）、進行性筋ジストロフィー症等の神経疾患）に関する専門医療施設としての診療、循環器疾患等に関する専門的な診療を行っている。

## 【治験管理室体制】

臨床研究部長を治験管理責任者、薬剤部長を治験管理実務責任者、治験薬剤師（CRC）1名（併任）、治験看護師（CRC）1名（併任）、非常勤事務職員1名、会計担当1名を配置している。

治験手順書、治験審査委員会等を整備し、医師、看護師、コメディカルと連携を図り、実施率100%を目標に迅速で信頼できる治験を目指している。

	職名	氏名
治験管理室長（治験管理責任者）	臨床研究部長	福留 隆泰
治験事務局長（治験管理実務責任者）	薬剤部長	小山田 純治
治験コーディネーター	薬剤師	田中 基稔
	看護師	岩崎 智子
治験事務	企画課長	副島 敏充
	受託・申請書等事務	柴田 さやか

## 【治験実施状況】

治験の実施体制を平成15年度より整え、神経・筋疾患の治験を中心に循環器内科、脳神経内科、脳神経外科の治験を積極的に受け入れてきた。2020年度は、脳神経内科での新規治験の契約はなかったが、2019年

度に契約を締結し進行中であった脳神経外科の「てんかん」領域の治験において、長期継続試験の契約を新たに締結し、治験実施にまで至っている。また、定期的な被験者スクリーニングによる候補症例の選定なども継続して行っている。

近年、全体的な請求金額は減少傾向にあるものの、脳神経内科領域でも新たな治験の導入を目指すべく、現在も製薬会社からの情報収集に努めている。

		2018年度	2019年度	2020年度
請求金額（円）		3,652,179	2,433,386	2,653,088
新規	治験課題数	1	1	1
	契約症例数	1	1	1
	実施症例数	0	1	1
	実施率	0%	100%	100%
継続	治験課題数	3	3	1
	契約症例数	9	4	1
	実施症例数	8	3	1
	実施率	89%	75%	100%
合計		80%	80%	100%

#### 【臨床研究において積極的にやっていること】

当院は神経筋疾患では、基幹医療施設となっており、神経変性疾患（パーキンソン病及び類縁疾患、ALS、脊髄小脳変性症）や免疫性神経疾患（ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎など）の診療を積極的に行っている。

また、地域支援病院として、脳血管障害急性期、虚血性心疾患、高血圧症、高脂血症及び糖尿病などの生活習慣病、急性肺炎、呼吸不全の増悪などの患者の受け入れも多い。

#### 【今後の方針】

当院での治験業務の中心を担っていた呼吸器内科の休診や脳神経内科医師の異動・退職等が重なったことによる新規契約課題の減少は、年間の請求金額の減少の大きな要因のひとつである。実績の回復に向け、より多くの新規課題取得を目指す必要があるため、本部より定期的に行われている治験参加意向調査アンケートへの積極的な回答を継続するとともに、当院で実施可能な課題の有無を製薬企業などに確認していきたいと考えている。年間の請求金額は減少傾向にある一方で、実施率については概ね維持できている。今後も実施率 100%を目指し、1例でも多くの症例登録に努めていきたい。



# 診療放射線科

---

診療放射線技師長 森田 伸二

## 【概要】

診療放射線科では、CT・MRI・SPECT などの最新の撮影装置を用いた画像診断、核医学検査など、医療現場で求められる様々なニーズに対応している。80 列マルチスライス CT では心臓 CT、大腸 CT も行っている。1.5 テスラ MRI 装置では頭部、脊椎、腹部、骨盤、四肢、乳房など全身の検査を行っている。RI 装置は診断用マルチスライス CT を搭載した SPECT・CT 装置で脳血流、骨、腫瘍、心筋シンチ等で画像の融合を行っている。地域医療支援病院として、東彼 3 町の急性期病院としての機能を果たしながら最新医療機器の共同利用を推進し提供している。

## 【大型医療機器の稼働状況】

CT 3432 件 (2019 年度 3730 件、昨年比 92.0%)

MRI 2380 件 (2019 年度 2674 件、昨年比 89.0%)

RI 123 件 (2019 年度 163 件、昨年比 75.5%)

血管造影 66 件 (2019 年度 64 件、昨年比 103.1%)

## 【共同利用状況】

CT 267 件 (2019 年度 375 件、昨年比 71.2%)

MRI 581 件 (2019 年度 663 件、昨年比 87.6%)

RI 3 件 (2019 年度 11 件、昨年比 27.3%)

# 臨床検査

---

臨床検査科は、臨床検査科長の他、技師長・副技師長・主任技師（3名）・技師（4名）合計9名のスタッフにて業務を行っている。令和2年度は、人事異動で1名の技師（技師→主任技師）が入れ替わった。検査件数は検体・生理検査をあわせた総件数において、302,955件と前年度比5%増加であった。各部署フォロー体制を整え、検体検査では、精度あるデータを迅速に提供することに心掛け業務を行ってきた。令和2年度は生化学自動分析装置の更新がなされ、外部精度管理調査・検査試薬会社主催サーベ－等へも積極的に取り組んだ。

細菌検査では、細菌同定・感受性検査、また各種迅速検査を行っているが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、新型コロナウイルス PCR 検査のための体制を整え、環境を整備、機器を導入し検査を開始した。患者以外に職員の検査も行い、迅速・正確な結果報告を心がけた。検査件数は月を追うごとに増加している。

生理検査部門では心電図・呼吸機能検査を始めとする一般生理検査を始め、各種生理検査に携わっている。超音波（エコー）の検査ではスタッフ全員が認定資格を取得しており、心臓・消化器をはじめ各種臓器の超音波検査に対応している。また脳波検査では長時間ビデオ脳波同時記録検査（ビデオモニタリング脳波）を行い、検査科長と連携を取りながら検査を行っている。また今年度は CPX（心肺運動負荷試験）をはじめ、新規項目の導入も行なった。

学術的な面では、令和2年度は、各種研修会・学会（集合形式）の開催がなく、各種認定資格取得が例年には及ばなかったが、Webによる各種研修会等に積極的に参加し自己研鑽に努めた。

## [部門別報告]

（検体検査部門）

検体検査部門に於いては、生化学・血液検査を始めとする検体検査総件数に於いて295,960件と昨年度比5%増加であった。ルーチン検査を始め、精度管理業務、日々の各分析装置のメンテナンス作業を行い、他部門とのフォロー体制を構築しながら、迅速な結果報告を行なうための体制づくりを行った。検査データの担保となる、外部精度管理調査に於いては、例年精度管理前にメーカーによる機器点検後に調査に参加するが、コロナ禍で実施できず、自分たちで実施可能な機器メンテナンスを行い、日本医師会精度管理調査、長崎県医師会精度管理調査に参加した。

また、令和2年度は生化学自動分析装置の更新がなされ（令和2年6月稼働）機器の安定した稼働運用に取り組み、尚一層精度あるデータを迅速に提供するように取り組んだ。また検査内容としては、生化学項目ALP・LDにおいて測定法をJSCC法（日本臨床化学会）からIFCC法（国際臨床化学連合）へ世界的に普及している測定法へ変更し、検査のグローバル化を進めた。また甲状腺ホルモン（TSH）のハーモナイゼーション

(標準化)も行なった。標準化することにより基準範囲の変更を行い、多施設とのデータ共有を可能とした。また、標準作業手順書の改定を含めた、各種マニュアル作成にも着手した。

輸血検査においては、スタッフによる手技を含めた勉強会を定期的に行い、手技のレベルアップにつなげた。また輸血療法マニュアルの更新を行い院内関連部署に配置し、輸血同意書の書式変更もおこなった。令和3年度は、生化学項目にて新規項目の導入、また血液象・尿沈渣などの形態学的検査のスタッフ間のレベルアップにも取り組み、より安定したデータが提供ができるよう、また精度ある検査データをより迅速に報告できるよう取り組んでいく。

#### (細菌検査部門)

細菌検査に於いては、総件数 4,499 件と前年度比 43%増加であった。ルーチン検査では細菌同定・感受性検査、またインフルエンザを始め 9 項目の迅速検査、また日常業務の他に I C T 活動・加算カンファ等へ参画し、院内感染対策にもチーム医療の一員として取り組んだ。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年11月からPCR検査を開始した。検査手技に於いては、臨床研究部 樋口免疫・ゲノム医科学研究室長にご指導をいただきながら、検査科スタッフ全員研修を受け、環境的な面では、細菌検査室の一部をPCR検査室に変え、安全キャビネット、オートクレーブ、遠心機などの機器を配置し検査に臨んだ。検査対象も患者の他、2月から職員、3月から業者も検査対象となり、検査件数も11月：77件、12月：131件、1月：314件、2月：618件、3月：706件と急増している。毎日午前・午後と2回の検査を行っているが、他部門の技師もサポートに入り、協力しながらルーチン検査と並行して行っている。

また、TRC装置(遺伝子検査装置)も令和3年1月に導入され、新型コロナウイルス検査の他に、抗酸菌(TB/MAC)の検査が可能となり、従来、外部委託検査に提出していた検査を院内検査とした。これにより結果報告が提出より1時間程度で可能となり、診療に貢献できているものと思われる。

検査業務の他にも、令和2年度はNHO共同研究(薬剤耐性菌感染が病院経営に与える追加的医療資源と感染管理、抗菌薬の適正使用に関する多施設共同サーベイランス研究)に参画させて頂き、データの抽出・会議への参加・論文査読等を行った。この共同研究に関しては令和3年度も継続して参加予定である。

令和3年度も一般細菌検査と新型コロナウイルスPCR検査と並行して行いながら、時間の許す限り新規項目導入への取り組みを行い、院内感染対策にも尚一層取り組んでいく。

#### (生理検査部門)

生理検査に於いては、令和2年度は検査総数 6,995 件にて前年度と同等の件数であった。心電図・呼吸機能検査を始めとする一般生理検査については、心電図が 3,409 件と前年度より 6%件数は減少した。逆に超音波検査総数は 2,105 件(175 件/月)と 153 件、前年度より 8%増加した。乳腺以外はどの臓器も件数的に前年度を上回り、特に心臓・腹部・体表の超音波検査の件数は増加(体表は前年度比 40%増加)した。また平成 30 年 8 月から検査を始めた長時間ビデオ脳波同時記録検査については、令和 2 年度は 262 件/

年（1日記録/件カウント）の実績、月平均22件であった。検査の実施の他、患者さんへの検査説明も加えて行っており、今後も取り組んでいきたい。

今年度は新規項目としてCPX（心肺運動負荷試験）検査関連機器を生理検査室に配置し、心臓リハビリ検査にチーム医療の一員として参加した、今後も件数アップに取り組んでいく。その他、長時間心電図検査（7日間記録）・下肢動脈エコーの検査を開始した。

また令和3年3月に超音波検査装置が1台増設となった。検査環境を整え、現在機器操作について、トレーニング中であり、令和2年度に続き件数アップにつなげたい。

以上、部門ごとの取り組みに関して述べたが、令和3年度は今以上に各部門で連携を取りながら、件数アップや新規項目の導入、コスト削減に取り組むたい。また、各種認定資格取得や各種研修会・学会参加発表にも全員で取り組んでいく。最後に検査機器の老朽化による更新について、多項目自動血球分析（CBC）装置・血液凝固分析装置・採血管準備システムを血液分析システムとして、一日も早く更新されるようお願いする。

# 臨床検査科（令和二年度 計）

2020/04/1～2021/3/31

臨床検査（件数）		入院	外来	計
検 体 検 査	尿検査	1,772	4,848	6,620
	糞便検査	68	242	310
	穿刺液・採取液検査	69	10	79
	生化学検査	83,548	152,192	235,740
	血液検査	14,374	21,375	35,749
	血球計算	5,579	9,575	15,154
	血液像検査	5,467	6,998	12,465
	血液凝固検査	3,027	4,028	7,055
	血沈降速度測定	301	774	1,075
	細菌検査	2,561	1,938	4,499
	一般塗抹	667	330	997
	一般培養	688	325	1,013
	抗酸菌塗抹	124	39	163
	抗酸菌培養	147	40	187
	血液培養	619	302	921
	PCR検査	318	903	1,221
	免疫血清検査	2,271	3,856	6,127
	病理組織検査	282	152	434
	細胞学的検査	93	61	154
	血液ガス測定検査	731	695	1,426
細菌迅速検査	160	90	250	
その他迅速検査	32	164	196	
生 理 機 能 検 査	心電図	1,171	2,238	3,409
	ホルター心電図	132	95	227
	負荷心電図	4	32	36
	筋電図	1	0	1
	筋電図(2神経)	44	31	75
	脳波(モニタリング脳波1日記録を1件としカウント含む)	189	73	262
	呼吸機能	108	91	199
	超音波	0	0	0
	聴力眼底検査	2	540	542
	血圧脈波	86	33	119
	PSG、その他	6	7	13
	サーモグラフィー	2	2	4
	超音波(心・頸部・下肢)	767	651	1,418
	超音波(腹部・甲状腺)	205	480	685
超音波(その他)	0	0	0	
	3	0	3	
外部委託検査	外部委託検査	1,261	1,927	3,188
	総生理検査件数	2,722	4,273	6,995
	総検体検査件数	107,532	188,428	295,960

# リハビリテーション科

---

副理学療法士長 峰松 俊介

## 理念

### 《リハビリテーション科理念》

地域に根付き、家庭・社会への復帰を目指した総合的なリハビリテーションの提供をめざします。

### 《リハビリテーション科運営目標》

- ・患者さんの尊厳を重視し、プライバシーを守ります。
- ・患者さんの自立支援・生活の質（QOL）の向上を最大限に図ります。
- ・「急性期から在宅まで」包括的かつシームレスなリハビリテーションサービスを提供します。
- ・地域住民の健康維持、増進のために貢献します。
- ・自己研鑽に励み、働きがいのある職場作りに努めます。

### 《目標》

- 1) 休日リハビリテーションの継続（土曜リハ・大型連休時）
- 2) 包括病棟のリハビリ基準達成
- 3) 訪問リハビリテーションの継続
- 4) がんリハビリテーション研修への参加継続
- 5) 診療報酬適正化・実績の向上を図る
- 6) 心臓リハビリテーションの開設
- 7) 学会への積極的な参加・発表
- 8) 他部門との連携強化
- 9) 養成校学生の受け入れ継続

## スタッフ

リハ科医長(兼任)：1名

定員 理学療法士：11名 作業療法士：4名 言語聴覚士：3名

非常勤職員(助手)1名

## 施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）

運動器疾患リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器疾患リハビリテーション料（Ⅰ）

がん患者リハビリテーション料 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）

## 週間スケジュール

- ・脳神経外科カンファレンス（水曜 15：00～） ・神経内科病棟カンファレンス（木曜 15：00～）
- ・包括病棟カンファレンス（水曜 8：40～） ・神経難病病棟カンファレンス（木曜日 8：40～）
- ・脳卒中カンファ（水曜 13：00～） ・地域医療連携室合同カンファレンス（金曜日 15：30～）
- ・心臓リハビリテーションカンファレンス（水曜 16：30～）

## 主な対象疾患と特色

対象疾患：神経・筋疾患、整形疾患、脳卒中、呼吸器疾患、外科術前後、脳外科術前後、心不全

特色：神経筋疾患の基幹施設であるため、治療・検査・レスパイト目的に入院された難病患者のリハビリを実施している。また、脳卒中・整形外科疾患等、早期リハビリを実施している。

また、外科・脳外科の術前術後、がんリハ、神経・筋疾患患者へ呼吸リハも取り組んでいる。さらに摂食・嚥下障害に対する嚥下リハビリテーションや、神経筋疾患患者への意思伝達装置の導入やスィッチの改良も積極的に行っている。2015.8より地域包括ケア病棟のリハビリテーション、2016.6より訪問リハビリテーションを平日午後から実施している。

2020年8月より心臓リハビリテーション開始。

## 2020年度診療実績

	疾患別件数（件）	疾患別単位数（単位）	療法士 1日平均単位数
理学療法	16,906	32,171	16.4
作業療法	8,205	15,455	17.2
言語聴覚療法	疾患別：7,243 摂食機能訓練：26	11,631	17.2
訪問リハビリテーション	491	981	

## 施設内活動への参加状況

管理診療会議、病床管理会議、月次評価会議、医療安全部会、医療安全推進部会、診療録委員会、NST委員会、褥瘡対策委員会、療養介護運営委員会、脳卒中ワーキンググループ、緩和ケア委員会など

## 研究・発表活動

- 学会や臨床研究は各自が設定 その他、地域・神経難病研修・院内での講演を年数回実施。
- 科内勉強会（月1回）

## 連休等の対応

土曜日は二人体制で出勤 長期連休は交代で出勤（連日ではない）

# 栄養管理室

## 1. 概要

スタッフは管理栄養士（栄養管理室長、栄養係）非常勤栄養士 2 名、非常勤事務員 1 名、調理師 4 名の計 9 名。業務内容は入院患者の食事療養（食事提供）、栄養管理、入院・外来患者への栄養食事指導、食事形態の調整や食欲不振等患者の対応、栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）の運営・活動等、多岐にわたっている。またチーム医療として褥瘡チーム、緩和ケアチームにも参画した。

## 2. 業務実績

### ①食事サービス

献立には季節ごとの野菜や果物、魚を随時取り入れた。また、毎月、行事食として季節に合わせた食事や日本各地の郷土料理の提供を行った。患者への食事アンケートでは、多くの方より「食事に満足している」という意見を頂いた。また、患者の希望が多かった献立表を導入したり、回数を増やしたりして満足度を高める工夫を行った。

### ②栄養食事指導件数

2020 年度個人栄養食事指導は 540 件実施。指導疾患は糖尿病、心臓病、高血圧症が多かった。集団栄養食事指導として、糖尿病教室を管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師とともに毎週 1 回実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8 月より中止となっている。

#### 【栄養食事指導件数】

個人指導				合計	集団指導			合計
算定		非算定			算定		非算定	
入院	外来	入院	外来		入院	外来	入院	
296	145	94	5	540	6	0	7	13

#### 【疾患別栄養食事指導件数】

疾患	件数	疾患	件数
糖尿病	219	低栄養	10
心臓病	128	胆石症	8
高血圧症	60	がん	5
脂質異常症	20	貧血	3
手術	17	痛風	3
腎臓病	16	クローン・潰瘍性大腸炎	3
摂食・摂食嚥下	13	胃・十二指腸潰瘍	3
肝臓病	12	膵臓病	2
肥満症	10	その他	8

③特別食加算率

加算率は 22.33%であった。提供数が多かった特別食は糖尿病食、心臓病食だった。

食事療養数	普通食	非加算特別食	加算特別食	加算率 (%)
201,208	34,867	121,413	44,928	22.3%

④経理状況

食材の単価をみながら献立調整を行い、適正価格での食事提供に努めた。

年間消費額	1食あたりの実行単価
51,407,096 円	255.5 円

3. 学会発表・講演会

特になし

# 臨床研究部

## A 欧文

No.	著者・タイトル・学術雑誌名・巻号・年
A-a	
	Nagaishi A, Narita T, Woodhall M, Jacobson L, Waters P, Irani SR, Vincent A, Matsuo H. Autoantibodies in Japanese patients with ocular myasthenia gravis. Muscle Nerve.2021.2;262-267
	Hakan Cetin, Richard Webster, Wei Wei Liu, Akiko Nagaishi, Inga Koneczny, Fritz Zimprich, Susan Maxwell, Judith Cossins, David Beeson, Angela Vincent . Myasthenia gravis AChR antibodies inhibit function of rapsyn-clustered AChRs. J Neurol Neurosurg Psychiatry.2020.5;526-532
	Mitsuru Watanabe, Yuri Nakamura, Shinya Sato, Masaaki Niino, Hikoaki Fukaura, Masami Tanaka, Hirofumi Ochi, Takashi Kanda, Yukio Takeshita, Takanori Yokota, Yoichiro Nishida, Makoto Matsui, Shigemi Nagayama, Susumu Kusunoki, Katsuichi Miyamoto, Masanori Mizuno, Izumi Kawachi, Etsuji Saji, Takashi Ohashi, Shun Shimohama, Shin Hisahara, Kazutoshi Nishiyama, Takahiro Iizuka, Yuji Nakatsuji, Tatsusada Okuno, Kazuhide Ochi, Akio Suzumura, Ken Yamamoto, Yuji Kawano, Shoji Tsuji, Makoto Hirata, Ryuichi Sakate, Tomonori Kimura, Yuko Shimizu, Akiko Nagaishi, Kazumasa Okada, Fumie Hayashi, Ayako Sakoda, Katsuhisa Masaki, Koji Shinoda, Noriko Isobe, Takuya Matsushita, and Jun-ichi Kira HLA genotype-clinical phenotype correlations in multiple sclerosis and neuromyelitis optica spectrum disorders based on Japan MS/NMOSD Biobank data. Scientific Reports.2021;607
	Makoto Yamakawa, Mari Watari, Ken-Ichi Torii, Ichiro Kuki, Masashi Miharu, Momoko Kawazu, Akihiro Mukaino, Osamu Higuchi, Yasuhiro Maeda, Tokunori Ikeda, Koutaro Takamatsu, Nozomu Tawara, Keiichi Nakahara, Hidenori Matsuo, Mitsuharu Ueda, Takao Takahashi, Shunya Nakane. gAChR antibodies in children and adolescents with acquired autoimmune dysautonomia in Japan. Ann Clin Transl Neurol.2021; 1002
	Naoki Hayashi, Jun Sone, Yuki Fukami, Yusuke Yoshida, Shunsuke Kuno, Kazuyuki Shimada, Naoki Atsuta, Tomohiko Nakamura, Osamu Higuchi, Masahisa Katsuno. Severe myasthenia gravis with anti-LRP4 antibodies and Hodgkin lymphoma. Muscle Nerve.2021.1;E2-E4
	Yamakawa M, Mukaino A, Kimura A, Nagasako Y, Kitazaki Y, Maeda Y, Higuchi O, Takamatsu K, Watari M, Yoshikura N, Ikawa M, Sugimoto I, Sakurai Y, Matsuo H, Ando Y, Shimohata T, Nakane S. Antibodies to the $\alpha 3$ subunit of the ganglionic-type nicotinic acetylcholine receptors in patients with autoimmune encephalitis. J Neuroimmunol.2020.349;577399
	Rika Yamashita, Mikito Shimizu, Kousuke Baba, Goichi Beck, Makoto Kinoshita, Tatsusada Okuno, Osamu Higuchi, Hideki Mochizuki. Anti-MuSK Positive Myasthenia Gravis with Anti-Lrp4 and Anti-titin Antibodies. Intern Med.2021.1;137-140

	Hiroyasu Inoue, Kentaro Yamada, Asami Fujii, Tatsuya Tomonari, Kotaro Mizuno, Keiko Mita, Osamu Higuchi, Masaya Akao, Noriyuki Matsukawa. A Patient with Fulminant Myasthenia Gravis Is Seropositive for Both AChR and LRP4 Antibodies, Complicated by Autoimmune Polyglandular Syndrome Type 3. Intern Med. 2020.17; 2177-2181
	Sho Aoki, Kazuaki Nagashima, Minori Furuta, Kouki Makioka, Yukio Fujita, Kazuma Saito, Tomoyuki Kashima, Nozomi Nakajima, Hayato Ikota, Osamu Higuchi, Yoshio Ikeda. Anti-LRP4 Antibody-associated Myasthenia Gravis with a Rare Complication of Thymoma Successfully Treated by Thymectomy. Intern Med.2020.9; 1219-1222
	Serina Koto, Masataka Umeda, Hiroaki Kawano, Yushiro Endo, Toshimasa Shimizu, Tomohiro Koga, Kunihiro Ichinose, Hideki Nakamura, Akihiro Mukaino, Osamu Higuchi, Shunya Nakane, Atsushi Kawakami. Behçet's Disease with Severe Autonomic Disorders Developing after Herpes Zoster. Intern Med.2020.8; 1099-1104
	Imamura M, Higuchi O, Maeda Y, Mukaino A, Ueda M, Matsuo H, Nakane S. Anti-Kir4.1 Antibodies in Multiple Sclerosis: Specificity and Pathogenicity. .Int J Mol Sci. 2020.24; 9632
	Nakamura,Satoru. Current Research Status of SARS-CoV-2 as a Pathogen of COVID-19. Journal of Health and Medical Sciences. 2020.2; 184

## B 邦文

No.	著者・タイトル・学術雑誌名・巻号・年
B-a	
	福留隆泰,森孝子,大平千絵. 認知症医療・ケアにおける機構病院の役割 認知症カフェの設置. 医療.2020.4;176-179

## 学会発表数

国際学会 招待講演、特別講演、受賞講演	国際学会		国内学会 招待講演、特別講演、受賞講演	国内学会	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
		0		1	4

## 社会活動

氏名	委員会等名	関係機関名
福留隆泰	理事	長崎県難病医療連絡協議会
福留隆泰	顧問	長崎県 ALS 協会
樋口理	評議員	日本神経免疫学会

## 民間等との共同研究

氏名	共同研究先	研究題目
樋口理	コスミックコーポレーション社	自己抗体検査システム開発
樋口理	イーバック社	重症筋無力症関連自己抗体遺伝子のクローニング
樋口理	タグシクス・バイオ社	アプタマー創薬研究

## 競争的研究資金獲得状況

項目	研究課題名	研究者名	研究事業名(依頼業者名)	主任分担の別
厚生労働科学研究費	スモンに関する調査研究	福留 隆泰	厚生労働省行政推進調査事業補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)	分担
日本医療研究開発機構研究費	MuSK 活性化剤の生物活性・毒性評価および筋無力症動物モデルを用いた POC の確立	樋口 理	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	分担
日本学術振興会科学研究費	自己免疫性自律神経調節障害の「多様性」に関する多角的研究	樋口 理	科学研究費補助金(学術研究助成基金助成金・基盤研究(C) 一般)	分担

**特 許**

氏名	特 許 権 名 称	出願年 月日	取得年月 日	番号
福留隆泰	興奮収縮連関の障害の判定装置の作 動方法		2017.9.15	6206912 号

**臨床研究部長 福留隆泰**

# 医療相談支援センター ― 地域医療連携室 ―

病棟師長名 富永 文子

## 基本方針

1. 円滑な前方連携、後方連携の実践
2. 患者のための多職種チーム医療の実践

## 目標

1. 病棟と連携し退院時期を明確にし、患者・家族が安心できる退院調整を実施する
2. 加算に繋がる調整を行い病院経営に参画する
3. 働き方改革を意識した業務改善を行う

## I. 患者の動向

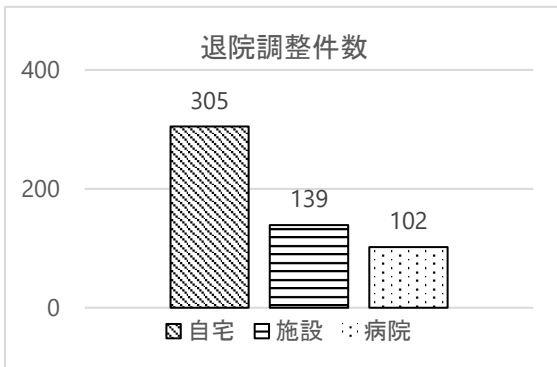
診療予約件数	1011 件
共同利用件数 CT	317 件
MRI	592 件
内視鏡	86 件
その他	22 件
入院時支援加算 (230 点)	46 件
入退院支援加算 1 (600 点)	543 件
介護支援等連携指導料 (400 点)	22 件
多機関共同指導加算 (2000 点)	3 件
支援相談件数	1949 件
入院支援センター介入件数	470 件
転院受入れ相談件数	127 件

## II. 看護職員等数 (4/1 現在数)

看護師長	1 名
------	-----

副看護師長	1名
看護師	2名
医療社会事業専門員	2名
事務助手（看護部）	1名
事務助手（事務助手）	2名

### Ⅲ. 退院調整先一覧



### Ⅳ. 看護

#### 目標 1. 病棟と連携し退院時期を明確にし、患者・家族が安心できる退院調整を実施

退院支援、退院調整に関する業務の明確化を行い、連携室での業務を抽出し退院調整の役割を明確にして退院調整業務マニュアルを作成した。また、院内の退院支援マニュアルの修正を行う中で病棟と地域医療連携室の役割を再認識し病棟へも退院支援を呼びかけた。入退院支援二次スクリーニングカンファレンスの開催にて患者の退院に関する方向性を確認し外部担当者と連携しながら退院調整を進めることができた。しかし、病棟との連携がとれず調整することもあったため、今後も病棟と連携を取りながら退院目標を明確にし、多職種で協働して患者が安心して退院できるよう進めていく。

#### 目標 2. 加算に繋がる調整を行い病院経営に参画する

入院予約の段階から退院困難な要因をアセスメントし退院支援、退院調整を図っていったが、加算には繋がらないケースが多かった。また、入退院支援スクリーニング評価カンファレンスと実施記録漏れにて加算取得できないケースがあるため病棟へも記録記載を働きかけ入退院支援加算取得を行った。

#### 目標 3. 働き方改革を意識した業務改善を行う

6月までに働き方改革の目的や時間管理に関する説明を行い、意識改革を実施した。時間調整可能な業務や17時以降の電話対応や面談、記録で超過勤務が発生していたため、17時以降の業務調整と遅出勤務者を配置し業務の見直しを行った。また、ICや家族面談等で時間外になる場合は前日までに確認し勤務時間調整をするなど調整が可能となり、超過勤務時間の減少に繋がった。

## VI. 看護研究・学会発表

実績なし。

# 危機管理センター

---

# 危機管理センター－医療安全管理室－

医療安全管理室 藤並慎之介

## 基本方針

1. 医療安全風土の醸成
  - 1) 病院職員のリスク感性を高めるための活動・人材育成
  - 2) 拠り所となる基本ルールの整備
2. 医療の質向上

## 目標

1. 医療安全推進委員、副看護師長のリスク感性が高まる働きかけを行う。
2. インシデントカンファレンスの開催率を 80%以上にすることができる。
3. 医療安全管理マニュアル・事故防止マニュアルの改訂作業を行う。

## I. インシデント状況

### 1. 発生件数

年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
件数	720 件	676 件	567 件

### 2. レベル別件数

	18 年度	19 年度	20 年度
ヒヤリ	—	—	23
0	81	144	98
1	360	264	257
2	246	233	176
3a	24	29	32
3b	9	5	4
4 以上	0	0	0

### 3. 主な内容

	18年度	19年度	20年度
与薬	140	117	91
点滴注射	38	26	35
処置関連	25	22	35
検査関連	46	70	48
チューブ	56	31	39
人工呼吸器	71	58	26
転倒転落	169	126	122
療養上世話	19	26	28
皮膚損傷	23	41	36
患者誤認	9	9	15

※レベル 3b 事例

- ①移乗介助による左上腕骨大結節骨折
- ②オーバーテーブルを押しながら歩行し転倒（腰椎圧迫骨折）
- ③ベッド端坐位の状態から滑り落ち転倒（右大腿骨転子部骨折）
- ④患者が立ち上がった際にストッパー付きでないテーブルをつかみ転倒（腰椎圧迫骨折）

## II. 医療安全研修

### 1. 静脈血栓塞栓症について

・2020.8月 参加率:91.7%

### 2. 診療放射線について

・2021.3月 参加率:99.7%

## III. 医療安全相互チェック

1. NHO 医療安全相互チェックは今期中止のため、院内看護部での相互チェックを実施。
2. 地域連携における相互評価（加算 1：大村市民

病院、加算 2：諫早記念病院）は今期中止のため

メールにて意見交換を実施。

#### IV. 今年度検討を行ったこと・新規導入したこと等

- ・静脈血栓塞栓症管理マニュアル、リスク評価表の改訂、リスク評価体制の変更等を医療安全管理室を中心に実施。説明周知、評価・検討会等を実施し定着を図った。
- ・新規作成：抗がん剤血管外漏出マニュアル、スタッフコールマニュアル、取扱いに注意を要する薬剤マニュアル等を作成した。
- ・改訂：医療事故発生時の対応、病理解剖フロー、人工呼吸器管理マニュアル、患者誤認マニュアル、経鼻経管栄養マニュアル、針刺し事故対応フロー等の改訂を実施した。
- ・医療安全推進部会を中心として、医療安全ラウンドの実施や、転倒転落アセスメントシートの改訂を実施。
- ・重大インシデント時のインシデント要因分析(RCA)検討会の実施。

#### V. 学会発表

- ・今年度なし

# 危機管理センター－感染管理－

感染対策専従看護師 内野めぐみ

## 基本方針

感染対策室は、医療行為に関連した病院感染症の予防と制圧および医療従事者の職業上の安全と健康を担当する部門であり、病院内のすべての領域に関与して横断的な活動を展開する役割を担っている。

## I. 実績

### 1. 入院患者の感染対策

	2021年3月
耐性菌介入数	107件
血培陽性介入数	(陽性件数)
コンサルテーション介入数	65件

### 2. 施設基準など取得状況

新規入院患者数	2,129名
加算計 490点×10	10,432,100点

## II. 感染対策に関する教育・研修

- 2020年度新採用者教育
- 感染管理に関する院内教育（看護補助者研修）
- 手指衛生の啓発 各月・毎週の手指消毒薬使用量を集計し、各部署に結果をフィードバック
- 感染リンクナース補佐部隊による遵守率チェックラウンド

### Ⅲ. 病院職員の健康管理

1. 新採用者・異動者の4種価抗体チェック
2. 季節性インフルエンザワクチン接種
3. 新型コロナワクチン接種

### Ⅳ. 感染発生の動向監査

1. 1回/週、ICTメンバーが院内巡視活動を実施し、感染対策実施の確認と指導を行っている。
2. 手術部位感染サーベイランス (JANIS)  
2020年度手術部位感染発生件数0件

### Ⅴ. 抗菌薬の適正使用

特定抗菌薬の届出制を行い薬剤師が中心となり、適正使用に対する相談と2週間以上の長期投与患者がないか情報共有した。

### Ⅵ. 加算施設との合同カンファレンス

地域連携加算施設（大村市民病院）との合同カンファレンスは実施しなかった。新型コロナウイルス感染流行に伴い今年度は紙面上で自己評価を実施し、各施設の評価結果を情報共有とした。

加算2連携施設(長崎病院)と新型コロナウイルス感染対策やワクチン接種について3回/年、合同カンファレンスを実施した。

## Ⅶ. 感染対策のための職員研修

開催日	テーマ	講師	受講率
2020年 5月16日	「新型コロナウイルス肺炎について」	ICD	90%
2021年 3月8日	「5分でマスター —手洗い・手指消毒」	感染 対策 室	100%

## Ⅷ. 地域への活動

東彼3町の訪問介護施設に対して東そのぎ医師会館で新型コロナウイルス感染症について出張講座を開催した。(7月、11月)

# 医療機器管理室

## 臨床工学技士業務、実施件数報告

技士数は2名。

主な業務:

医療機器管理室内の業務(医療機器の管理・点検など)、血液浄化業務、手術室業務、ペースメーカー関連業務、使用中の人工呼吸器管理、心カテ立会い、勉強会・説明会開催など

### ① 医療機器管理(貸出・返却・点検)

・貸出し前点検、定期点検、修理(メーカー手配合む)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
保守点検 修理業務	貸出	91	67	87	77	81	49	51	67	77	80	61	100	888
		78	92	76	82	62	53	99	62	85	76	59	63	887
	返却	88	64	73	83	84	47	48	55	83	81	73	88	867
		89	81	90	63	63	67	68	75	88	69	57	85	895
	貸出前点検	94	65	72	72	83	43	44	64	84	83	78	98	880
		89	81	0	59	68	66	73	75	92	69	59	78	809
	定期点検	14	30	13	4	4	4	0	2	21	13	7	10	122
		19	20	22	4	2	0	2	2	16	16	4	18	125
	修理	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
		0	2	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0	1

※赤文字:2020年度、灰色背景:2019年度

### ② 手術室

・術中モニタリング(SEP、MEP、ABR、AMR、VEP)

・DBS、VNS、ITBなど手術立ち合い

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
術中 モニタリング	ABR/AMR	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
DBS	DBS(新規)	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5
		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	DBS(IPG交換)	2	2	0	0	0	2	0	0	1	3	2	2	14
VNS	新規植込み	1	0	0	2	1	1	2	4	1	1	3	3	19
		0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	4
	IPG交換	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ITB	新規植込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
	リフィル	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	5

※赤文字:2020年度、灰色背景:2019年度

③ 血液浄化業務 (アフレスリス業務)

免疫吸着、単純血漿交換、CHDF、PMX、腹水濾過濃縮再静注法、GCAP、ビリルビン吸着

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
血液浄化 業務	免疫吸着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	J039:4,200点	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	5
	単純血漿交換	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
	J039:4,200点	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
	CHDF(日数)	0	5	5	0	0	0	0	0	4	0	0	4	18
	J038-2:1,990点	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
	PMX	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
	J041:2,000点	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	腹水濾過濃縮	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	K635:4,990点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
GCAP	0	0	0	7	8	12	4	8	2	0	0	0	41	
J041-2:2000点	0	0	0	7	8	12	4	8	2	0	0	0	41	
ビリルビン吸着	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
J039:4,200点	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	

※赤文字:2020年度、灰色背景:2019年度

④ 人工呼吸器管理業務

- ・ 回路交換後の確認(8病棟は2回/週)
- ・ 人工呼吸器の設定や動作確認(20~40件/日)
- ・ トラブル対応

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
人工呼吸器 管理業務	ラウンド	738	720	706	831	707	753	499	522	667	350	348	651	7492
		734	763	854	902	981	910	977	556	429	345	442	633	8526

※赤文字:2020年度、灰色背景:2019年度

⑤ ペースメーカー関連業務

- ・ 植込み、交換時の立会い(プログラマー操作等)
- ・ 外来のフォローアップ(5~6人/週)(毎週月曜 13:00~15:00)
- ・ 他科手術時設定変更など

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
ペースメーカー 関連業務	外来	21	14	17	24	17	9	24	16	21	17	16	9	205
	フォローアップ	21	16	20	20	15	13	18	16	18	10	14	6	187
	入替術後チェック	9	5	3	3	0	4	4	2	0	0	2	0	32
	手術立会い	12	7	6	4	2	1	5	0	0	0	2	3	42
		1	6	0	1	2	2	4	1	0	1	1	0	19
	0	2	0	2	1	2	2	0	0	1	2	3	15	

※赤文字:2020年度、灰色背景:2019年度

⑥ 冠動脈カテーテル検査間接介助(CAG)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
冠動脈カテーテル 検査間接介助(CAG)	1	2	5	3	1	6	9	2	4	5	3	0	41	
	4	6	3	2	8	4	2	6	4	4	2	2	47	

※赤文字:2020年度、灰色背景:2019年度

⑦ 医療機器安全使用研修会

・勉強会、説明会の実施

2020年度の実施件数 32回(人工呼吸器関係 11回、その他 21回)

日時	内容	参加者数	対象者
4月2日 7月1日	モナール、トリロジー、バイパップ	2	8病棟(新人・異動者)
4月14日	人工呼吸器入門(基礎)	1	8病棟(新人・異動者)
4月16日	バイパップについて	1	8病棟(新人・異動者)
4月22日	トリロジー、バッグバルブマスク	1	8病棟(新人・異動者)
4月23日(同日2回)	パラパック、バッグバルブマスク	2	8病棟(新人・異動者)
10月1日 12月1日 2021年2月1日 3月1日	人工呼吸器取り扱いについて	7	8病棟(新人・異動者)
12月10日	セントラルモニター	12	5F病棟
12月1、15日 2021年2月19、24日	除細動器について	34	外来、OP室、副看護師長、3F病棟
2021年1月20日	AED取り扱いについて	13	PT、OT
2021年2月 15、16、17、18、19日 (各日3回)	JMS シリンジポンプ	106	全看護師

資格等について

1) 所有資格・認定

認定・資格	取得人数	認定学会名
臨床ME専門認定士	1	日本生体医工学会 日本医療機器学会
医療機器情報コミュニケーター	1	日本医療機器学会
日本アフレスリス学会認定技士	1	日本アフレスリス学会
3学会合同呼吸療法認定士	1	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会
第1種ME技術者	1	日本生体医工学会
第2種ME技術者	2	日本生体医工学会
BLSヘルスケアプロバイダー	1	長崎 ACLSトレーニングサイト

2) 所属学会

所属学会	役職
日本アフェレンス学会	評議員(2021年総会まで)
日本臨床工学技士会	
日本心血管インターベンション治療学会	

# 事務部

## ①令和2年度 病院行事

	一般行事	その他
4月	辞令交付・オリエンテーション(4/1) ※歓迎会(院内)中止	永年勤続表彰
5月		
6月	職員健康診断(一般・特殊) 看護職員採用試験(6/27)	業績評価研修
7月		
8月		
9月	監査法人期中監査(9/23)※オンライン	生涯教育講座①「令和2年度診療報酬改定から見る今後の病院経営～コロナ禍を乗り越えて未来に向かうために～」 生涯教育講座②「画像診断のこれまでとこれから」
10月	地域医療支援病院運営委員会 ※書面開催 国立病院総合医学会(10/7～11/14)※オンライン 幹部看護師任用候補者選考試験 ※オンライン ※消防訓練 中止	ストレスチェック ※患者満足度調査 中止
11月	国立病院総合医学会(10/7～11/14)※オンライン 全国院長・看護部長・事務部長協議会	※健康フェスタ 中止
12月	※合同忘年会 中止 特殊健康診断	業績評価研修 生涯教育講座③「患者・家族からのハラスメント研修—ペイシエントハラスメントへの対応法—」

1月	※新年懇親パーティー 中止	認可外保育施設立入検査(12/22)
2月		
3月	退職者辞令交付 地域医療支援病院運営委員会 ※書面開催 看護師就職説明会 ※オンライン ※消防訓練 中止 ※合同送別会 中止 ※ボランティア感謝の集い 中止	36 協定協議

## 2020年度 医療機器等契約状況一覧

機器等区分	機器名	メーカー	規格	数量	契約(予定)月等	更新 新規 増設	備 考
					納品月		
生化学分析装置	生化学自動分析装置	日立	LABOSPECT006	1	R2.6	更新	
その他	皮膚科光線療法装置	ウシオ電機	セラビームUV308	1	R2.6	新規	
その他	運動負荷試験用血圧監視装置	日本光電		1	R2.6	新規	
その他	肺運動負荷モニタリングシステム	日本光電	Cpex-1	1	R2.6	新規	
その他	心電計	日本光電		1	R2.6	新規	
その他	システムモニタ	日本光電		1	R2.6	新規	
X線TV装置	X線透視撮影装置	日立	EXAVISTA17	1	R3.3	更新	
その他	リアルタイム濁度測定装置	キャンン	GenelyzerF3	1	R2.9	新規	コロナ関連整備
その他	自動遺伝子解析装置	サーモフィッシャー	アプライドハイオシステム QuantStudio5Dxシステム	1	R2.11	新規	コロナ関連整備
滅菌装置	高圧蒸気滅菌器	PHC株式会社	MLS-3781-PJ	1	R2.10	増設	コロナ関連整備
その他	超低温フリーザー	PHC株式会社	MDF-DC200V	1	R2.10	新規	コロナ関連整備
内視鏡(ビデオスコープ)	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス	GiF-1200N	1	R3.1	増設	コロナ関連整備
内視鏡(ビデオスコープ)	大腸ビデオスコープ	オリンパス	PCF-H290ZI	1	R3.1	増設	コロナ関連整備
生体情報モニター(セントラルモニタ)	医用テレメータ(8人用)	日本光電	WEP-5218	1	R2.12	増設	コロナ関連整備
除細動器	デフィブリレータ	日本光電	TEC-5631	1	R3.1	増設	コロナ関連整備
安全キャビネット	バイオハザード対策用キャビネット一式	PHC株式会社	MHE-S1301A2-PJ	1	R2.10	増設	コロナ関連整備
その他	核酸自動精製システム一式	プロモガ株式会社	Maxwell RSC AS4500	1	R2.12	新規	コロナ関連整備
機械浴装置(一般)	昇降式介護浴槽	オージー技研株式会社	HK-255G-U2	1	R3.1	増設	コロナ関連整備
その他	診察台	タカラベルモント株式会社	US-400	1	R3.2	増設	コロナ関連整備
生体情報モニター(ベッドサイドモニタ)	ベッドサイドモニター	日本光電	PVM-4763	2	R3.3	増設	コロナ関連整備
機械浴装置(一般)	電動シャワートロリー	ケイセイ医科工業	P.S.T-B06	1	R3.2	増設	コロナ関連整備
その他	陰圧式エアータント	日本船舶薬品(株)	NP-45	3	R3.3	新規	コロナ関連整備
その他	簡易陰圧装置	日本エアータック(株)	PEU-20	3	R3.3	増設	コロナ関連整備
その他	超低温フリーザー	PHC株式会社	MDF-DU502VX-JP	1	R3.2	増設	コロナ関連整備
グローブ	リニアグローブ	富士フィルムメディカル	L38v/L25v	1	R3.3	増設	コロナ関連整備
麻酔器	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン	Care station620	1	R3.3	増設	コロナ関連整備
麻酔器	麻酔記録装置	日本光電	CAP-0500	1	R3.3	増設	コロナ関連整備
生体情報モニター	手術用ベッドサイドモニター	日本光電	CSM-1502	1	R3.3	増設	コロナ関連整備
手術台	手術台	ミズホ(株)	MOT-5602BW	1	R3.3	増設	コロナ関連整備
その他	防音型ガソリンエンジン発電機	デンヨー(株)	GE-5500SS-IV	4	R3.3	新規	コロナ関連整備
合 計				38			